

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2016.1 NO.441

初春号

第67巻4号

70年以上続く 伝統の茶摘み

本校の茶摘みは昭和16年頃に始まり、毎年恒例行事として、児童、保護者、地域が一体となって取り組んでいます。5月、学校の外周に植えられている約400本の茶の木や地域の方が栽培されている茶の木から新芽を摘み取ります。茶摘みの仕方は、上級生から下級生へと受け継がれていきます。また、一緒に参加した保護者や地域の方からも、丁寧に教えていただきます。

収穫した茶葉は、児童が味わうほか、地域の協力者に配付したり、来校者に飲んでいただいたりしています。本年度は「お茶の木すくすく隊」が立ち上がり、地域ボランティアの手でお茶の木の手入れをしようとする動きが始まりました。

かかみがはら しりつ いなば ひがししょうがっこう

各務原市立稲羽東小学校

●【学校の教育目標】

進んで力いっぱいやりぬく子

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

各務原市立稲羽東小学校



「お茶の木すくすく隊」といっしょに

本年度発足した地域ボランティアの方々と一緒に、5年生の子もたちがお茶の木の手入れをしました。



みんなで力を合わせた「運動会」

本校は5月に運動会を開催しました。初夏の日差しのもと、競技や応援に力と声を出し切りました。



プロの演技に親子で釘付け

親子観劇会を開催しました。劇団員の軽快な動き。張りのある声。プロの演技を親子いっしょに楽しみました。



ぼくたちの校舎をきれいにしよう

夏休みに親子で学校の環境整備に取り組みました。保護者は校庭で草取りを、子どもたちは廊下の汚れ磨きをしました。



気持ちを一つにしてジャンプ

児童会の主催で長縄大会を開催しました。練習を重ねるごとに、縄を越える回数が増え、かけ声が大きくなりました。



「落し物なくし隊」が大活躍

昨年度から、『金銭教育』を実践しています。人・もの・お金を大切にすることを一環として、4年生児童が中心となり、落とし物のない学校を目指しています。今では、全校「落とし物ゼロ」です。

わが子のあゆみ

2016.1 No.441 初春号

第67巻4号

発行：岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内

編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部

頒価：200円 年間1,000円

この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは

058(262)3257

県PTA連合会事務局へ



【かかみがはらしりつ りょくえんしょうがっこう】

各務原市立緑苑小学校

●住所 〒509-0112 各務原市緑苑北26番地
●TEL (058)384-7210
●FAX (058)370-9504
●メール ryokusho@he.mirai.ne.jp
●児童数 219名



▲緑苑小学校校舎

校歌

緑苑小学校校歌

作詞 永縄半助
作曲 和田三里

一、朝日に映える 丘こえて
若いかおりが 呼びかける
緑苑小の わたしらぼくら
花にみどりに 夢そえて
心ゆたかに 学びます

二、澄ゆく空も
希望の虹が もえてくる
緑苑小の わたしらぼくら
風にひかりに 意気高く
力いっぱい 鍛えます

三、手をとりあえばたくましく
歌もはずんで ひびきあう
緑苑小の わたしらぼくら
あすへ明るい 目をあげて
今日もまっすぐ進みます



▲縦割り班で協力してゲームを楽しみました

なかまとともに力いっぱいやりぬく子

やさしい心で助け合う子 よく考えをつくりだす子 進んできたえる子

本校は、昭和五十一年四月に各務原市東部の小高い山を切り開いた住宅地（緑苑団地）の一角に開校し、今年度は、開校四十年を迎えました。校区は、自然に恵まれた緑豊かな地域で、学校の周りには、さくらんぼの木が並木のように植えられています。これらは、PTAの方々が卒業生が大切に育ててくれたものです。

地域と学校とのつながりも強く、環境整備のボランティアや登下校の見まもり隊など多くの方々に学校を支えていただいています。

合い言葉は「笑顔と感動あふれる緑苑小」

学校が、「楽しい」という児童がたくさんいます。そして、そんな児童が一人でも増えるよう、仲間と協力して活動することを通して、互いに心を響かせ、感動できる毎日を送れるように二一九名の児童と保護者、教職員、そして地域が、一丸となって取り組んでいます。

沿革・地域の自然や風土

本校は、昭和五十一年四月に各務原市東部の小高い山を切り開いた住宅地（緑苑団地）の一角に開校し、今年度は、開校四十年を迎えました。校区は、自然に恵まれた緑豊かな地域で、学校の周りには、さくらんぼの木が並木のように植えられています。これらは、PTAの方々が卒業生が大切に育ててくれたものです。

1 学校の
たからもの

「やさしい心で助け合う子」を目指して

仲間の「よさ」に気づき、互いに認め合うことを大切にしています。日頃から、温かい言葉かけについて考えたり、「心ほかほかキャンペーン」を行ったりすることで、児童一人一人が自分や仲間の「よさ」に目を向けられるようにしています。また、学校行事や児童会行事を通して、認め励みしながら集団として共に高まることのできるように心が通い合う活動づくりを推進しています。

2 学校の
たからもの

「よく考えをつくりだす子」を目指して

わかる・できる喜びを味わえる授業づくりを大切にしています。自分で課題に立ち向かい、仲間と考えを交流する中で、児童が「わかった。」「できた。」「と考えを深めることができるよう、指導しています。また、今年度から、どの子も安心して学習に取り組めるように授業のユニバーサルデザイン化を目指して取り組んでいます。

3 学校の
たからもの

「進んできたえる子」を目指して

進んで自分の体を鍛えるために、運動量を確保した体育の授業、外遊びの習慣化に取り組んでいます。また、自分の命は自分で守る力を育てるために、命を守る訓練の充実や日頃の安全指導に努めています。

児童が自分たちで進める児童朝会
学校をよくしていくことと取り組んでいるのが、児童会活動です。集会委員が司会をして月に一回、委員会活動の取組などを提案しています。今年度の児童会スローガンは、『あいさつと思いやりで、みんなスマイル緑苑小』です。「あいさつを増やしたい。」「みんなが笑顔で活動したい。」「など願いをもって、計画委員が中心となって児童会活動を進めています。

縦割り活動「スマイルタイム」
縦割り活動を「スマイルタイム」と呼んでいます。月に一回、昼休みの時間を長くとして、自分たちで計画した活動や遊びを行っています。そこには、上級生が下級生に優しく教えたり、仲良く活動したりする姿が多く見られます。活動を通して、相手を思いやる気持ちを

の仲間と過ごします。本年度も各班で協力し合っていくつかのゲームに挑戦したり、近くにある「うめまの森」に登り、みんなで弁当を食べたりしました。

この行事を行うために、六年生のリーダーが中心となって何度も話し合いを重ね、全校に提案しました。子どもたちからは、「ゲームが協力できて楽しかった。」「六年生の人たちが優しくしてくれてうれしかった。」「などの感想が寄せられ、どの班も楽しく活動することができました。また、「私も今年の六年生みたいに頼られる人になりたい。」「というあこがれの声も聞こえ、異年齢の集団で活動する経験は、子どもたちにとってとても貴重であることが分かります。伝統ある行事のよさを今後も大切にしていきたいです。

地域の教育力のすばらしさ

①見まもり隊
学校の周りには、坂道や見通しが悪い箇所が多くあります。地域の方々が、児童の安全を守るために、「見まもり隊」として、ボランティア活動をしてくださっています。雨や雪の日にも交差点に立って、児童に温かい言葉をかけてくださいます。

②読み聞かせ
緑苑小学校では、語彙力を高めるために読書活動に力を入

ています。PTAや地域の方の協力により、朝読書の時間には定期的に「読み聞かせ」を行っていたいています。

子どもたちがとても楽しみにしている活動の一つです。

③放課後子ども教室
放課後に学校施設を活用して、地域の方の協力のもと、二・三年生の児童が様々な体験活動を行っています。地域の方の中には、プロ級の指導者もいらっしやあって、ていねいに教えてもらいながら、ふれあいを深めています。その内容は、「語り継ぐ各務原空襲」「ペタンク」「太極拳」「生け花」など、様々な年間十五回計画されています。普段ではあまり体験できない活動に取り組む子どもたちの姿からは充実感が伝わってきます。

④緑苑自治会環境ボランティアグループ
自然に恵まれた学校の周りをいつも気にかけていただいているボランティアグループの方々がいます。今年度は、校地の斜面の草刈りを何回も行ったり、開校四十年を機にツゲの木でデザインした「緑苑」の文字を形づくっていただいたりしました。

緑苑小には、こうした多くの地域の方に支えられています。今後とも地域とのつながり



▲進んで草刈りを行っていただいている環境ボランティアの様子



▲放課後子ども教室「茶道」の様子

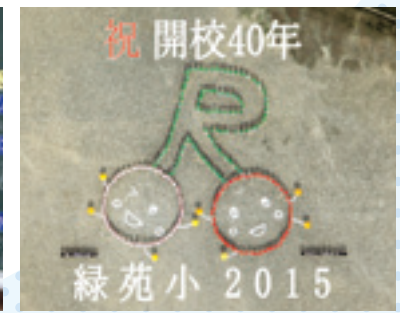
を大切にして、笑顔と感動あふれる緑苑小学校を目指していきます。



▲スマイルタイムで仲良くゲームをする様子



▲算数の授業の様子



▲開校40年を記念して全校で航空写真を撮影しました



【かさまつちょうりつ まつえだしょうがっこう】

笠松町立松枝小学校

●住所 〒501-6004 羽島郡笠松町長池642番地
 ●TEL (058)388-2551
 ●FAX (058)388-2568
 ●メール matushou@ccn4.aitai.ne.jp
 ●児童数 609名



▲松枝小学校校舎



松枝小学校校歌

作詞 岩田 ケン
 作曲 森 清
 編曲 吉川 清

一、山河の恵みゆたかなる
 郷土の栄ひらかんと
 睦みし友と明け暮れの
 学びの窓に伊吹峯の
 雄姿仰ぎて幾星霜

二、幼き夢をそのままに
 浮べて流る木曾川の
 飛沫に育む青春の
 希望を堪えてつき進む
 歓喜の歩み朝ぼらけ

三、東海岸に寄る波に
 文化の香あつめつつ
 濃尾の空に向上的の
 羽ばたきあげる若人の
 うた声高く雲を呼ぶ

四、大空かぎり松が枝の
 常盤の緑さわやかに
 ゆるがぬ力自然の美
 心にうつし人の世の
 力とならん美とならん



▲努力の人 野口英世像

学校の教育目標 美しい心で たくましく やりぬく 松枝の子

学校の沿革 地域の様子

明治六年、北及村に「求信義校」、田代村に「博習義校」が設立され、明治十九年には門間村に「簡易小学校」が設立されました。明治二十四年十月二十八日に濃尾大震災が起こり、三つの学校は倒壊しました。これを機に三つの学校が統合し、明治二十七年四月に「松枝尋常小学校」となりました。

昭和二十五年、松枝村が笠松町と合併することになりました。これを機会に、「笠松に合併した松の枝なので、松枝小学校にしよう。」ということので、「笠松町立松枝小学校」と改称しました。

また、校舎は昭和四十九年に開校百年を迎え、六月に、現在使用している校舎全体が建てられました。

学校は、濃尾平野の南部に位置し、東に清流木曾川が流れ、愛知県とあい対しています。西に境川が流れ、羽島用水が田畑を潤す豊かな自然環境です。

広い運動場、全館冷暖房の整った教室環境の中で、勉学に励んでいます。特に図書館には蔵書も多く、毎日児童が本に親しみ、読書が生活に位置付いています。

才能開く松枝の子

平成二十七年度は、次のことを学校経営の柱としています。

①「べんきょう」ができる子をキャッチフーズに、すべての子どもに「学力を、伸ばしたい」という願いがあることをふまえ、学力向上を学校教育の核とする。

②基礎の力を定着させた上で、活用・応用力をつける。

③前項を基礎に、自己の良さを見出し、自己有用感を持ち、町のために貢献する子、運動・芸術・科学・文学などの才能を見出す子になって欲しい。「才能の芽が開くこと」をめざす。

また、本年度の十一月に、国語・算数の公表会で学習の成果を発表しました。



▲授業で自分の考え・気持ちを伝えたい

五つの自慢

【あいさつ】
 小中合同であいさつ運動を展開しています。児童会計委員会が中心となり、中学校PTAや地域とも連携し、よりよい挨拶をめざして、毎日児童玄関で大きな声で「おはようございます」と語りかけています。



▲「おべんとくん」参加の挨拶運動

【合唱】
 歌声委員会による歌声朝会を毎月実施して、より美しい歌声の仕方を全校に浸透させています。その時の寸劇が児童の楽しみになっています。学級や学年の仲間と心を一つにした歌声をつくりあげ、まつっこフェスタで全力で歌います。

【清掃】
 始まる前に黙想をすること

で、掃除に集中します。昼の休み時間あけに、音楽チャイムが流れると、全校が一瞬にして、静寂の時間となります。一分間後に、目当て役割を確認後、心を磨く雑巾がけが始まります。

【伝統の太鼓】
 松枝小学校では、まつっこ太鼓に取り組んでいます。毎年運動会で六年生全員が、全校の前で披露します。この伝統を守る

フェスタ」があります。

①全校の前で合唱発表
 フェスタの前日には、全校で交流し、学び合う会を位置付けています。フェスタ当日は、地域・保護者の方が、参観され、盛んに拍手をされます。



▲全校の前で合唱発表

た保護者の方も、目の色を変えて興味津々に教授の説明に聞き入っていました。

④食についてのブース
 食については各学年取り入れる事になっています。写真は親子でリンゴの皮むきです。



▲親子でリンゴの皮むき

【児童の安全を守る】
 児童の登下校の安全はこの地域でも喫緊の課題です。本校



▲手打ちうどんを練り込む児童



▲オレンジジャンパーの「ふれあいたい」の方

では、朝の教職員毎日の見守りに加え、「ふれあいたい」の方々や、地域のボランティアの方々、PTA役員等で登下校の安全、不審者から守っています。

【放課後児童クラブ】
 保護者が安心して働ける環境が整っています。放課後児童クラブの対象児童は3年生までですが、昨年度より夏休み中は、6年生まで対象児童が拡充され、多くの児童が、安心・安全に生活を送ることができています。



▲スーパーカーについて熱く語る教授



▲放課後児童クラブの前で安心して遊ぶ児童



▲NHK合唱コンクールに参加した成果披露



▲黙想の開始です

瑞浪市立明世小学校

●住所 〒509-6132 瑞浪市明世町山野内1-40
●TEL (0572)68-2807
●FAX (0572)66-1063
●メール akiyosho@city.mizunami.lg.jp
●児童数 121名



◀明世小学校校舎

校歌

明世小学校校歌

作詞 足立利六
作曲 小西義道

一、明るく光る月と日は
正しい心のしるしです
緑の風が吹く窓に
みんなのぞみあふれます
のびる子明世のわたしらぼくら

二、やさしくめぐる山や川
さえずる鳥も咲く花も
えがおでみんな肩をくみ
心のかようなかまです
なかよし明世のわたしらぼくら

三、化石の町に新しい
うた声高く流れます
しっかり力やしなつて
あすのしあわせ開きます
強い子明世のわたしらぼくら



▲化石のまち「ピカリア」



▲ピカリアまつり「校長先生と握手」



▲百人一首大会



▲ピカリアまつり「みんなで山登り」

明るく たくましい 明世の子 よく考える子 仲よく助けあう子 じょうぶな子

学校の教育目標
(1) 明るいあいさつ
児童会（ピカリア委員会）では、四月当初からあいさつ運動



瑞浪市は「化石のまち」として有名で、今から二〇〇万〜一五〇〇万年前の湖や海でできた地層が広く分布しています。特に明世地区では、当時生息していた貝・魚・ほ乳類など約一五〇〇種類に及ぶ化石が産出し、文化的環境に恵まれています。特に「ピカリア」という巻貝の化石が有名です。本校児童会を「ピカリア委員会」と呼び、児童会がピカリアのように子ども達を巻き込みながら成長していけることを願って活動しています。

本校は、明治五年にその前身「専精義校（河合）」が創立されました。明治三十九年には、月吉、河合、精華各小学校が合併され、明世尋常小学校となり、本年度で開校一〇九年を迎える伝統と歴史を有する小学校です。また、健康優良学校、歯の優良学校として長年実績を積み重ね、県の優秀校として表彰されています。

学校の沿革・地域の特性

(2) 進んで学習
日常的な学習の取り組みに加え、特に七月、十二月、三月には、話し方、聞き方や話し合いを深める取り組みを重点的に行い、進んで学習に参加できるようにしています。

また、瑞浪中学校の期末テスト前一週間には、土岐小学校（瑞浪中学校区）と連携し、「家庭学習がんばり週間」を位置付けています。この期間は、「テレビやゲームの時間を減らし二時間学習をします」などがんばり宣言をして、家庭ぐるみで取り組みを進めています。

(3) 楽しく読書
図書委員会では、五月と十月に「図書館まつり」を行っています。読書パズル、地域ボランティアや先生の読み聞かせ、図

を始めています。「いつでも、どこでも、誰にでも」を目標に、顔を見て、元氣よく、笑顔で明るいあいさつができるよう取り組みを進めています。

さらに児童会（ピカリア委員会）では、六月と十一月に「ここにこ言葉」「ここにこ行動」を広げたり、いっぱいにする取り組みをしています。本校は、全校児童一一一名の小規模校のため、学年の枠を超えた全校的な取り組みを行っています。



▲図書館まつり「ブックトーク」



▲母親委員さん手作りの「ブックカバーバッグ」



◀図書館まつり「本で調べようのへや」



【かにしりつ にしかにちゅうがっこう】

可児市立西可児中学校

●住所 〒509-0258 可児市若葉台7丁目1番地
●TEL (0574) 65-6835
●FAX (0574) 69-0096
●メール nishikani@school.city.kani.gifu.jp
●生徒数 417名



◀五月晴に泳ぐ鯉のぼり

校歌

西可児中学校校歌

作詞 古田 花子
作曲 松濤 基道

一、美濃と尾張の国境
拓けゆく丘に輪になるわれら
明けわたる空をつき上げて
笑顔で誓う 声高く
「生きる 生きる 強く 明るく」
ああ われら 西可児中学校

二、梅のつぼみが耐えてきた
吹雪の夜を思ふとき
生きてゆく日に出あう
試練に負けず肩を組み
灯りを点し つつゆく
灯りを点し つつゆく

三、清い木曾川 守りつづ
活かして使う力と心
よりよく豊かに 生きるため
今こそ励む 学之道
「伸びる 伸びる 直く 確かに」
ああ われら 西可児中学校



▲玄関に飾られた吹き流し



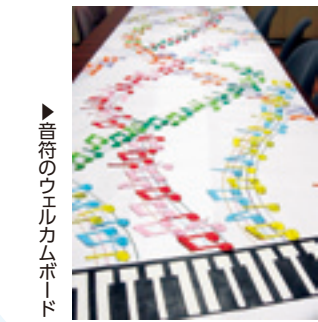
▲開花したひまわり



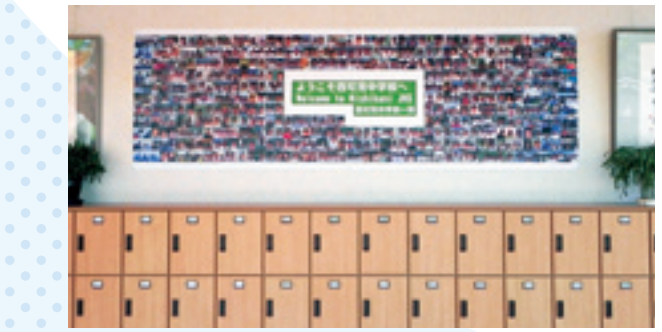
▲メッセージボード



▲よいことみつけの掲示物



▶音符のウェルカムボード



▲笑顔のウェルカムボード

学校の教育目標 仲間と共に高まり合う 体を動かし 頭で考え 心に感ずる

学校の沿革

本校は昭和五十四年、「可児市立西可児中学校」として創立された学校です。丘陵地を開拓しニュータウンを造成したことで、市の西部を中心に人口が急激に増加した開校当時は、千人を超える生徒数でしたが、現在は全校生徒四一七名（五月一日現在）となっています。このような現状において、地域の活性化を願う住民の中学生に対する期待は大きいです。こうした中、本校では、ふるさと教育として、「地域と関わる」「ふるさとを知る」「その土台として「絆を深めよりよい人間関係をつくる」を、本校PTA、地域の皆さんと共に進めています。ここでの「良さの体感」がふるさとへの誇りと愛着へとつながると考えます。



宅地開発で各地から移住してきた人たちの親睦を深めるために始まり、地域の活性化には無くてはならない地域行事が、現在では支えている人たちの高齢化や後継者不足等により存続が懸念されています。地域に住む一人として中学生が地域住民と共に地域の活動を支えるという



「可児の事について、何も知らなかったけれど、いろいろ聞いたり、見たり、体験してきて私のふるさととは可児ですと自信をもって言うことができる」これは本校の生徒が話してくれた内容の一部です。私達が生活している可児市は、「美濃桃山陶の聖地」と呼ばれるように、昔から「陶芸」が盛んであると同時に、多くの有名人を排出している地です。そのようなふるさと

目的で、積極的なボランティア活動が行われています。四月から十月までの七ヶ月間にボランティア活動に参加した生徒は、全校生徒の六十五％にあたる二七〇人です。また、多くの生徒が、西可児中の自慢として「ボランティア活動」をあげています。活動に対して、地域の皆さんから認めていただいたことが喜びとなり、次回も仲間を誘って参加しようという思いへとつながっています。ボランティア活動は、単に与えられた係の活動をやリきった充実感だけでなく、生徒と地域住民との心のつながり・ふるさと可児に対する愛着・西可児中に対する誇りをも生み出し、活力に満ちたふるさとづくりにつながっています。

りは、九月十二日に開催された協友祭の会場を飾りました。
エ 全学級・全校メッセージボード
学級別にA1判用紙一枚に「西可児中の自慢」「夏休みの決意」を寄せ書き風に書きました。そして各学級の寄せ書きを全校一つにまとめ、二学期の最初に行われる協友祭のスローガンの文字が出てくる工夫をしました。一学期終業式に披露し、みんなで一学期を締めくくるだけでなく、夏休みから二学期に向けてへの意識をつなぐ糸口となりました。

オ 全校よいことみつけ
生徒会執行部の発案で、協友祭の取組期間中に、「仲間が頑張っている姿」等を見つけ、メッセージカードに記入する活動を行いました。協友祭の取組を通して日常生活を高め、仲間との絆をさらに太く、強くすることを目的としました。「大きな太陽になって現れた時、みんなの力はすごいなあ」と思いました。

と可児を知るために以下のことを行っています。
ア 可児市役所文化財課職員による歴史話
全校生徒を対象に、全校朝会の時間を使い、年間で五回講演を実施しました。「美濃桃山陶とは」「荒川豊蔵ものがたり」「信長と美濃金山城」「美濃金山城のことがすごい！」「日本に誇る可児の自然」という演題で、可児の歴史を学びました。

イ 可児空襲の話
可児市で育ち可児空襲を実際に体験された方に依頼し、全校生徒を対象に講演を実施しました。「可児市にも空襲があったことに驚いた。また、戦争のおそろしさも知ることができた」「戦時中のことを、家でも聞いてみたい」等、生徒は戦時中の可児市の様子を理解できました。



▲お茶を点てる様子

ウ 茶道体験
可児市役所観光交流課と連携し、可児市茶道連盟から派遣いただいた講師の指導のもと、一

た」等、生徒一人ひとりが創り上げた掲示物に満足感をもっていました。
カ 笑顔のウェルカムボード
二学期を「素敵な笑顔」でスタートすると共に、仲間関係の向上をはかる目的で作成しました。参加希望者の「写真撮り」を行い、四七七の枠に笑顔が貼られました。保護者や地域の方々も参加していただき、九月末に完成し、今年度末まで職員玄関に飾ります。「みんなの笑顔を見ると心がほっとする。そんな笑顔が溢れる学校にしたい」等、学校に温かい雰囲気がつくりだされています。

キ 生徒玄関大パノラマ掲示
広い生徒玄関を生徒が創り上げた財産を残す場所にする中で、自分達の歩みに自信と誇りをもって欲しいと願い、さらに「あたにかい空間」にするため、折り鶴で掲示板と玄関を飾りました。各学年のフロアに折り鶴を準備したところ、八日間で二〇〇羽を超える折り鶴が集ま

年生を対象に各クラス三回ずつ、お茶の点て方や作法など、生徒がペアとなって茶道体験を行いました。「可児市にお茶の歴史があることを知って驚いた。誇りに思う」等、生徒は貴重な体験ができました。
エ 荒川豊蔵記念館の見学
一年生を対象に、可児市が誇る人間国宝の荒川豊蔵氏について、さらに深く理解するために、「荒川豊蔵記念館見学」を行いました。「見つかった陶片、荒川豊蔵さんが実際に焼いた茶碗があつて感動した」等、「美濃桃山陶の聖地」である可児市を知ることができました。



以下の活動は、一つのをみんなで創り上げ、生徒・教職員・保護者・地域住民等の関わりを密にし、よりよい人間関係をつくらうと今年度から始めた活動です。
ア 全校で掲げた鯉のぼり
市販の鯉のぼり一〇〇匹（一匹の大きさは六十cm）に、生徒は「自分の夢」や「ふるさと可児」を、その他の大人は「西可児中学校に対する願い」「子ども達へのメッセージ」を記入しました。合計七六七人の思いが込められた鯉のぼりが、四月二

りました。生徒会執行部のメンバーの意見を取り入れ、大パノラマ掲示はつくられています。
ク 全校合唱ウェルカムボード
全校音楽会にあたって、全校生徒が一体感をもって合唱に取り組めるよう、願いを込めた掲示物で、気持ち（雰囲気）作りを行うことを目的としました。音符型のカードに願いを書き、全員分をつなげて学校の生徒玄関や全校音楽会の会場のロビーに掲示します。「みんなと力を合わせて音楽会を頑張りたい」と全校音楽会への意欲を高めることができました。

わが子のあゆみ

2016.1 No.441 初春号

表紙 各務原市立稲羽東小学校

学校のたからもの 1
各務原市立緑苑小学校／笠松町立松枝小学校／瑞浪市立明世小学校／可児市立西可児中学校

わが家の宝物 羽島市立竹鼻小学校PTA会長 服部隆雄 9

特集「中三、親の気持ち」
笠松中・池野美奈子／陽南中・楠由香里／西部中・森田真紀子／瑞陵中・小栗吉彦／中山中・柚原雅樹 11

家庭教育応援団！^⑩ 関市立上之保中学校 17
関市立板取小学校

シリーズ「療育」^⑭ 飛騨古城特別支援学校 19

お弁当の日 大垣市立東中学校PTA 21

保健室ノート 御嵩町立上之郷中学校 養護教諭 上野清美 23

私の先生^⑩ 岐阜市立岐阜小学校教諭 武藤裕子 25

子育て半生記 岐阜市立日野小学校 副会長 棚橋由賀 27

ボランティアニュース [vol.8] 29
養老町立広幡小学校PTA
養老町立東部中学校PTA
養老町立笠郷小学校PTA
養老町立日吉小学校PTA

私が出会った1冊の本【続25】 31
岐南町立東小学校PTA 副会長 小島篤史
高山市立国府中学校PTA 米村祐三子
子の思い・親の願い・教育の窓 33

子の思い
川辺町立川辺西小学校 3年 山田 有
高山市立江名子小学校 4年 輪湖太一
郡上市立三城小学校 6年 鈴木日菜
垂井町立不破中学校 3年 福本雄大

親の願い
海津市立高須小学校PTA 会長 岡田哲也
美濃加茂市立西中学校PTA 会長 小川 忠

教育の窓
恵那市立長島小学校 教諭 小栗 研
羽島市立中央中学校 教諭 安藤 洋

親子ではてな 40
インフォメーション 41
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
かぼちゃのコロッケ

ふるさとの伝承 43
土岐市立濃南中学校

きらり!キッズ! 45
高山市立東小学校

夢中!熱中!我らが部活 47
土岐市立泉中学校

私たちのPTA 49
郡上市立牛道小学校PTA

わが家の宝物

羽島市立竹鼻小学校PTA会長
服部 隆雄



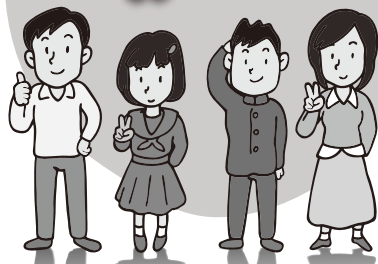
わが家の宝物は、
子どもたちの笑顔です。

息子は中学三年生になり、娘は小学五年生になりました。子どもの成長は早いもので、あっという間のように思えます。

中学生の長男は、これまで陸上部の一員として、毎日部活動に励み、中学三年間で培った体力、能力を出しきって中学最後の夏の大会で部活動を終えました。今は受験生として、自分自身の目標に向かって頑張っています。小学生の長女は、学校や友達がとても大好きで、幼稚園から今まで一度も学校を休んだことが無く、とても元気で活発な女の子です。

近頃、生意気なことを言い反発する事もありますが、二人とも学校での役などを積極的に取り組み、前向きに育ってくれて大変うれしく思っています。

私はこれまで幾度か、二人の子どもたちの笑顔で癒され、また仕事への活力をもらいました。子どもたちの笑顔はわが家の大切な宝物です。この笑顔を絶やさぬよう、見まもり、育んでいきたいと思っています。子どもたちの未来のために。



夜食を作りながら

笠松町立笠松中学校PTA
池野 美奈子

受験勉強も追い込みに入る中三の秋。息子は今日も夜更けまでノートを広げているので母親の私は夜食作りにいそしみます。

高校受験。「大学受験に比べたら超ラク！」と大学生の姪っ子は

言うけれど、公立の小中学校だった息子にとってはスケールの大きな初めての挑戦。親の私にもその緊張や不安が伝わってきます。

九年前、まだ小さい体の息子は、期待と不安を胸に小学校に入学しました。二つ年上の姉の後を追い、頼りない可愛らしい姿に微笑んだものです。

小学校の先生は、親のように息子の世話をしてくださり、お話もよく聞いて下さいました。おかげで、小学校が大好きな息子でした。そして小学校入学と共に少年サッカーを始め、忙しさと疲れでドリルが進まないこともありましたが、先生方のご理解のもと、元気にサッカーと勉強の両立ができました。

優しく理解のある先生方にお別れをし、三年前、同じ仲間達と一緒に中学校に入学。小学校の時ほどの不安はなく、期待に胸ふくらませての入学でした。

では未知の世界。小中学校入学とはひと味もふた味も違うものでしょう。

与えられたものではなく、自身自身の努力で得る高校入学。息子はそれを目前にして、自分の目標を掲げて今日も黙々と机に向かいます。

私は思います。たとえどの高校に入ろうとも、沢山の方々の愛情を受けて育った息子です。自信を持って、人一倍楽しい高校生活が送れるはずだと。

そんな思いを胸に、今日も夜食を作って息子を応援します。それが親にできる唯一のお手伝いからです。

受験生のみなさん、親御さん、共に頑張りましょう。

しあわせ

岐阜市立陽南中学校PTA
楠 由香里

「三つもっとうしよう。」
先日、ある講話で、わが子の長

した。

中学生になると、小学校とは違い楽しいことばかりではありません。サッカーと勉強の両立も甘くはありませんでした。クラスでは、仲間どうしで意見がぶつかり合うこともありました。今までは親のような先生に助けられてきた息子も、今度は毎日の課題をサッカーをしながらどうこなすか、自分は学級のリーダーとして何ができるのか、楽しい中学校生活は大きな壁に阻まれました。

そんな時、力になってくださったのは先生や地域の方々でした。中学校の先生は、生徒と同じ目線に立って気軽に話を聴いてくださり、息子は何度も先生に相談しながら解決に向かっていきました。

朝、重い気持ちで家を出ることもありましたが、そんな時ほど地域の方々のあいさつ、声かけがとても清々しく聞こえ、学校に着く頃には気持ちが軽くなったそうです。

自分で考え、解決に向けて行動するその姿は、二つ年上の姉の後

知人から言われる。

二、弟の面倒を見てくれる。

三、弟が生まれてから、自立するようになった。

家で笑顔になるのは、パソコンやテレビや弟の前、友人との会話や美味しい物を食べた時くらいでしょうか。しかし、外ではいつも笑顔でいるらしく、皆さんに褒めていただいています。習い事での人間関係も良好で、きちんと挨拶をするので、家での反抗が信じられないとも言われます。

弟は特別な存在で可愛いらしく、乳児期の頃はオムツを替えた後、離乳食を食べさせたり、お風呂に入れたりして手伝ってくれました。寝不足で体力が無い私は、かなり助けられ、息子をとても頼もしく感じました。

今でも一緒に遊んだり、本の読み聞かせをしたりしています。なかなか泣き止まない時は我慢強く話し掛けたり、玩具であやしたり、いろいろ試して泣き止ませてくれます。私はPTAの役員として、

ろを追いかける、あの頃の息子ではありません。頼もしく成長した息子は、先生方、友達、地域の方々のおかげでこんなに大きく成長することができたのだと実感しています。

感謝と共に著しく成長していく息子は、学級の代表や応援団にも挑戦していきました。先生や友達に助けられてきたお礼に、皆の役に立ちたいという思いが形に表れたことでした。

色々なことに挑戦する息子の制服の袖は、もはや手の甲にはかかっていません。文字通り、心身共に成長していきました。

そんな色々な経験を経て、与えられた沢山の愛情を胸に今日も息子は机に向かいます。学校が終われば毎日塾通い、その後は家で勉強。忍耐強さはサッカーで培った息子の宝物です。こんなに頑張れるのは、応援して下さる方々がいるから。息子の九年間は、本当に感謝でいっぱいです。

高校という世界は、息子にとつ

会議や行事で家を空けることが多いのですが、息子が留守番をしてくれるおかげで、安心して出掛けることができます。

私の両親は田舎で農業をしているので、時々、週末に手伝いに行きますが、幼子を連れては思うように手伝えません。そんな時は息子の出番です。体は大きくありませんが、田植えや稲刈り、米俵の運搬などを手伝います。炎天下での作業や力仕事など、持続して手伝えることは、かなりの忍耐が必要です。それでも、休憩をしながら最後まで手伝っているのは、年長いた祖父母を助けたという優しい気持ちがあるからでしょう。なかなか出来ることではないと、わが子ながら感心しています。

なるべく自分のことは自分ですること、物を大切にすること、兄弟仲良くすることを、幼い頃から言ってきました。また、出来栄えは別として、幼稚園の頃は上靴洗いや米とぎなど、小学一年生ではガスを使用した料理やアイロンが

けなどもさせていました。

普段は反抗して手伝いもせず、部屋の整頓もしないことが多いのですが、私が体調を崩した時は、兄弟で家事を分担して助けてくれます。学校でも友達と助け合い、考えて行動する姿が見られるようです。

「まあ、幸せだね。」半ば強引に言わせた言葉ですが、幸せと聞いて嬉しくなりました。もうすぐ中学を卒業し、義務教育を終えます。その後、益々、行動範囲が広がり、何をしているのか分かり辛くなります。でも、幸せだと言ってくれた息子を信じて、見守ろうと思います。

笑顔のお母さん

大垣市立西部中学校PTA
森田真紀子

長男が小学校に入学したとき、批判をされないように、陰口をたたかれないように、お利口に育てなくては、賢い子に育てなくては

は、と何に怯えていたのか、自分の思いばかりが大きくなっていました。わが子が学校生活に適応できるようにどう育てていくか、私は至極真面目に至極真剣に、毎日規則正しい生活をさせなければいけない、と気負いました。

そのために何をしたか…。

下校して家に帰ってくる十五時三十分から、偏った知識で決めた二十一時就寝までの五時間三十分の間を、三十分刻みのスケジュールで埋め尽くしました。

おやつ、遊び、宿題、夕飯、テレビ、お風呂、読み聞かせ、就寝、曜日によっては習い事も入れて、すべてをタイムスケジュールに組み込んで表にし、それを見ながら生活しました。小学一年生の長男と四歳の次男をスケジュール通りに生活させようとすると、私の口から出る言葉は一種類。：「はやく」「はやく」「はやく」「はやく」

そして、二学期が始まって少し経ったある晩。いつものように読

み聞かせをしようと布団に入ったとき、すっごく可愛い顔を並べた二人は同時に、今日は何か特別に聞いてほしいことがあるの！というキラキラした目で言いました。

「お母さん、聞いて!!」

私は言いました。

「はやく。絵本よむよ。黙って聞いてって」

その瞬間の子どもの顔は思い出せません。さらっと言った自分の言葉にショックを受けて、辺りがぼやけてしまったからです。なぜその時だったのかは分かりません。(なにやつとるんやろ…)力が抜けてしまいました。

私はどんなお母さんになりたいんだろう…。

思い浮かんだのは「笑っているお母さん」でした。イライラ怒っているお母さんでもなく、しくしく泣いているお母さんでもなく、もやもや苦しんでいるお母さんでもなく、せかせか焦らせるお母さんでもなく、「あはははは」と笑っているお母さん、優しく微笑んで

いるお母さんになりたいなあ、そう思いました。

「じゃあ、簡単。そうしよう。」と想ったら、今までとらわれていた「こうでなくてはいけない」という怯えから解放されました。「はやく」をやめ「笑っているお母さん」を目指す私には、子どもの話を聞く時間がたくさんできました。「ねえ、聞いて」と話し始める子どもに、相槌を打ちながら聞いているだけです。子どもたちは眠くなるまで一生懸命に話してくれる、その幸せ。

「そうなんや」「うん、それで?」「そういうときもあるねえ」「ほんとやねえ」「へえ、そういうふう思ったんや、おもしろいねえ」…あれから十一年、子どもの眠くなる時間が「日付が変わりましたけど…」くらいに変化し、話してくれる頻度も減ってきましたが、今も変わらず続いています。

話の内容から心配することもありませんが、大抵の場合だいたいの見当がつくので、手出し口出しし

なくてもそれぞれが解決し、ちゃんと自分の居場所を見つけています。きっと生き方には正解も間違いもなく、その子の選択を「そういうのもありやね」と受け止めてやれる度量を、やきもきしながら磨き中です。

誤解を恐れずに言うならば、血が繋がっていても、違う人間、一個人という意味で、親子は他人です。以前、こう言ったら「かわいそう」と絶句されたこともありましたが、でも、自分の体も気持ちも自分の意思で動かせるものはごくわずかであるのに、自分の意思で他人を思うようにしようとすることは奇跡。だから、わが子といえども考えていることが分からなくて当たり前、言うことを聞かなくて当たり前、思い通りにならなくて当たり前、と考えれば、一人の人間として精一杯成長しようとしている子どもを冷静に、そして、温かく見守れる気がしています。義務教育を次男も終えようとしている今、これから先の人生、自

我が子に思う

瑞浪市立瑞陵中学校PTA
小栗吉彦

私は今四十九歳となり、当然のことながら娘が成長するのと一緒に年を取ってきました。ほんの十五年前にこの世に生を授かり、よちよち歩きから生意気な口をきくようになるまで、思い返せば一瞬の出来事のように思えます。

振り返れば、結婚したとき、子どもが生まれたとき、その時その時で周りの先輩に色々なアドバイスをいただいたことを思い出します。なかでも最も記憶に残っているのが、当時の上司から「給料は奥さんに渡すな」と言うのと「子どもは親の言う通りには成らないが、親のようには成る」という

ありがたいお言葉を頂いたことで。

前者はさておき、後者は「親のあらゆる姿が子どもに大きく影響する」と言う意味だと思います。

嫌味を言う親の子どもは嫌味を言うようになる。人の悪口を言う親の子は人の悪口を言うようになる。逆もそう。子どもの最も身近なお手本は親ですから当然そうなります。「ただいまー!あー仕事疲れたー!」なんて言って、お父さんが毎日帰ってくる家の子どもは、社会人になることに希望がなかなか持てないということもあるかもしれません。私もついいう言ってしまう時があります。そりゃしょうがない!本当に疲れているんだから言葉に出ますよ!でも、きつと言葉が足りていないのでしょう。「ただいまー、今日は充実した一日だったなー!ビールが美味いわ!」と言うようなことを後から補足してみます。すると子どもは「今日何があったや?」と聞いてきます。「んー、あーで

こーで…」と一日の出来事を話します。子どもがどう思ったかは気にしません。楽しそうに話せば楽しかったこと、嫌そうに話せば嫌だったことがそのまま伝わるだけなので、充実感や楽しかったことだけ伝えるようにしたいと思っています。実際はなかなか難しいですけど…。

さて我が子はこの十五年でどんな子に育ったのでしょうか。実は女の子なので、私には正直良く分かりませんが、よくよく考えてまとめると、思い違いでなければこんな感じですよ。

「家が好きで」「テレビが好きで」「勉強が嫌い」「来る者拒まずで」「自分なりのこだわりは持っていない、それが人からはわかりにくい」etc…。あつ!自分と同じだ!ほぼ親のとおりになつとる!まあ、それが嬉しくもあるわけですが:手放しで喜んでいるわけにもいかないといった複雑な心境です。

十五年前に戻ることはできません。「三つ子の魂百まで」とも言

～食育への生かし方～

27 年度 学校給食調理発表会 作品集③

優秀賞

大垣市南部学校給食センター

チーム名「南部食堂」



＜献立＞ 麦ごはん・牛乳
にじますの梅だれ
切干大根のあえ物・すったて鍋
南濃みかん

＜献立について＞

主菜は、関市で養殖されたにじますをからりと揚げ、甘酸っぱい梅だれをかけ、さっぱり食べられるようにしました。あえものは、郡上市の切干大根や神戸町の小松菜を取り入れ、しゃきしゃきした食感が楽しめるように仕上げました。汁物は、西濃地域で多く作られている大豆を生かしたいと考え、白川郷飛騨牛すったて鍋を参考にしたすったて鍋です。すりつぶした大豆と飛騨牛のうまみがつまった濃厚な汁物です。

（献立作成者）栄養教諭 川原昌士

（発表者）川原昌士・長谷川豊子・高橋憲治郎

資料提供…（公財）岐阜県学校給食会

招いているのでしょう。

この点については、三人兄弟の内の一人だけを特別扱いする結果になってしまっていることは、もうやり直す事はできませんが、私の反省するべき事の一つです。

これまでの子育ての中で嬉しかった事の一つは、長男が私と同じ卓球部を選んでくれたことです。妻は自分と同じ吹奏楽部を選んでくれた事を、口には出しませんでしたが残念がっていたと感じています。親戚から使わなくなった卓球台を譲り受け、夜一時間ほど長男と練習をしている

いますから、今から自分をどうしようと思っても難しい。でも実は、こんなことは重要なことではないと思っています。実は私は、「自己肯定感」が一番大切だと思っています。何も無かったとしても、これだけは無ければならないことだと思います。

自分を否定して生きることは、大変辛いことだと私は知っています。我が子には、自分自身を好きでいてほしいと思っています。そのためには、親が子どもを否定しないことと、子どもが手本となれるよう、親自身が自分を好きでいられることが最も大切だと思っています。その為にはできるだけ物事に主体的に取り組んで、熱中して打ち込みたい。そういった姿を子どもに見せ続けたいと思うのです。「自分の好きなことをやるだけじゃないか」と誰かに言われそうですが、正直それもありません。男親は娘と一緒に何かに熱中することはなかなかできません。私は「福士蒼汰」や「嵐」

にも全く興味がありません。共通の話題はどんどんなくなっています。子どもの世界は、成長に従ってどんどん広がっていくでしょう。そのうち絶対に親の目が届かなくなる時が来ます。そのとき、我が子が自分自身のことを好きでいてくれたら、私は子どもを安心して見ていられます。

今回、「中学校三年生の子を持つ男親の気持ちを文章にしてください」と依頼を受けました。取り留めもなく筆を進めてみましたが、色々な思いがあり書ききれません。そう言ったいろいろな思いをひっくり返して今思うことは、こんなことです。

「子どもも一人の人間で、私自身が年月を重ねてきたように、子ども自身も日々の生活の中で感じたことや身の回りで起こる出来事によって様々な刺激を受け年月を重ねていくことでしょう。ただただ、そういった営みを見守っていたい。」とここでこれは、我妻も読むのだろうか…。だとしたら、日頃こ

んな話をしたことが無いから、かなり恥ずかしい…。

今、思う事

高山市立中山中学校PTA
柚原雅樹

私には三人の息子がいます。今年、義務教育最後の年を迎えています。私も息子達と同じ中学校に通ってしまいましたので、長男が入学した時には久しぶりに母校の門をくぐりましたが、私が通っていた頃の四階建て鉄筋コンクリートの校舎はすでに建て替えられ、綺麗な木の外観の二階建て校舎に変わっていました。

学校は小高い山の上に建っているのですが、私の自宅からも建て替えの様子が見えていましたが、新しい校舎を初めて間近で見た時は、時代の流れを感じずにはいられませんでした。

長男が入学した時は、小学校からの友人の多くが同じ中学に入学しても、学校に馴染めるのかと心

時の卓球部の顧問の先生が、三十年ほど前に私の弟の担任で、私の両親を良く知っている事を知り、世間の狭さを実感することとなりました。当然のように、二男と三男も卓球部に入りましたが、部活の事は、ほとんど妻が率先して行ってくれました。と言いますか、妻の方が卓球に入れ込んでしまったと言った方が正しいかもしれません。部活動の保護者会の役や試合等は、七年間ほとんど妻が担当してくれました。

息子達が小学校に入学して以来、私自身はPTAに携わること

配していましたが、初めて家に友達遊びに来た時は、心の中で一安心した事を、今でもはっきりと覚えています。

それと比べると、次男・三男の時には、心配はしましたが、まあ大丈夫だろうと気楽な物でした。男三人兄弟ですので、兄弟の關係が氣になるところですが、我が家につきましては、長男は一人別格な存在で、次男と三男が同格と言って良いかと思っています。

私が思うに、長男が一人上の存在になってしまったのは、最初の子どもだった事が関係していると思っています。

長男は、生まれてから今現在の大学まで、親にとっても全てが初体験で、意識していなくても丁寧な子育てになっていたのではないのでしょうか。それに比べ下の二人は、勝手知ったる何とかで、手抜きとは言いませんが、楽に育てられていると感じています。おそらく、その違いを敏感に感じ取り、長兄を一段上に見てしまう結果を

が多くなり、学校に足を運ぶ機会ができたことは、私にとって良い経験になったと感じます。

これまでの子育てで、自分はいったい何を学び何を行ったのかと思い返す時、手探りで大変だった子育てが、親の成長そのものであり、先生方や学校関係で知り合った皆さんと、話したり過ごしたことが、大きな手助けとなっており、息子と共に、自分自身も成長出来たのではないかと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいです。

実践紹介2 関市立板取小学校「在宅取組型」

ポイント

- 学校行事を「話そう！語ろう！わが家の約束」運動につなげて親子の会話を大切にする。

願 い

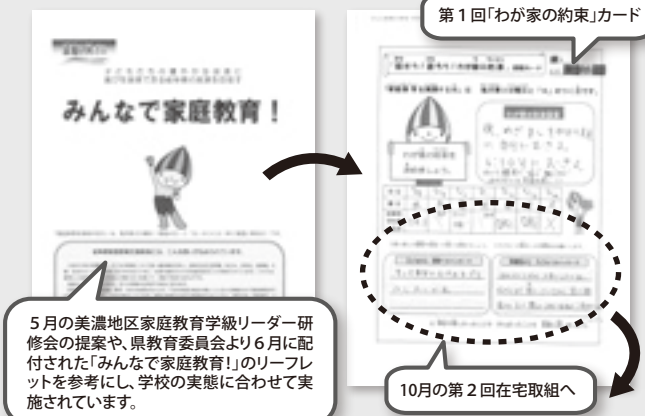
「あいさつ運動」を広げ、各家庭で、親子で話し合って約束を決める場をつくってほしい。親子の会話を大切にして子どもを理解し、親子のよりよいかかわり方を学んでほしい。

対 象

全校児童と保護者

活動内容

- 第1回 わが家の約束（あいさつ）
- ① 6月30日、PTA参観日にリーフレット「みんなで家庭教育！」を配付し、取組に対する願いや取組内容を保護者に説明し、実践カードを配付。
 - ② 7月、第1回在宅取組として、各家庭で1週間実施。
 - ③ 記録カードに取組や感想を記入、1学期中に回収。
- 第2回 わが家の約束（家族読書）
- ① 10月、第1回の振り返りを紹介し、第2回在宅取組として、「親子読書」を実施。



感 想

- ・家の人とハイタッチをして、あいさつをすることができました。（子）
- ・あいさつ運動を家族で行うことができました。これからも、自分から大きな声であいさつを言うように続けてください。（保護者）
- ・家族で、朝、顔を見て、あいさつをしたら、もっと楽しい1日になると感じました。1日のスタートだから大事にしたいです。一緒に続けようね！（保護者）

板取小学校では、在宅取組を年2回計画し、第1回目の取組「あいさつ運動」を、県教育委員会の「みんなで家庭教育！」リーフレットに掲載されている「話そう！語ろう！わが家の約束」運動につなげて実施しました。親子の会話を大切にし、家族で話し合って約束を決め、一緒に取り組む内容となっています。さらに、10月の第2回在宅取組では、親子で読書を楽しむ親子読書を実施しました。

お気軽にご相談ください！
各教育事務所には、家庭教育推進専門職がいます。家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜教育事務所	058-278-3059	(直通)
西濃教育事務所	058-473-1011	(通)
美濃教育事務所	057-533-4011	(通)
可茂教育事務所	057-425-3311	(通)
東濃教育事務所	057-111-1111	(通)
飛騨教育事務所	057-733-1111	(通)

編集後記

○実践意欲を高める工夫
今回紹介した二校は、PTAの取組や学校行事と「話そう！語ろう！わが家の約束」運動をつなげ、子どもと保護者が意欲的に取り組めるように工夫されています。①取組の目的やポイントを分かりやすく伝える。②家庭の実践を通信等で紹介することで実践のよさを全体に広める。③前回の取組を生かして（ステップアップして）次回に取り組む。この三つを繰り返すことで、子どもも保護者も、親子で話し合うことや一緒に取り組むことがとても大切なことに気付き、家族の絆の深まりを感じています。どの家庭でも家族の時間を大切に、実践を重ねることに会話がはずむようになると思います。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

ー掲載内容ー

- ・平成23～26年度家庭教育学級の実践
- ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ（乳幼児期編）」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ（小・中学校編）」

岐阜県 家庭教育学級

検索

実践紹介1 関市立上之保中学校「講演型＋在宅取組型」

ポイント

- 情報モラル講座での学びを生かして「話そう！語ろう！わが家の約束」運動につなげる。

願 い

子どもと話したり、目標に向けて一緒に努力したりして子どもとかかわる中で、子どもの考えや実態を理解してほしい。保護者がどう子どもに働きかけるとよいのか学んでほしい。

講 師

KDDIケータイ教室

対 象

生徒、保護者

活動内容

- 第1回 わが家の約束（情報モラル）
- ① 6月11日、PTA参観日に親子講話を実施。「親子で学び、考えよう～ネットとの付き合い方～」
 - ② 6月12日、案内の通信、カードを配付。
 - ③ 6月13～30日、各家庭で1週間実施。
 - ④ 7月7日、第1弾振り返りを通信で紹介。
- 第2回 わが家の約束（情報モラル＋家族読書）
- ① 7月15日、案内の通信、カードを配付。
 - ② 夏休み中、各家庭で1週間実施。
 - ③ 9月、第2弾振り返り通信で紹介。

感 想（一部抜粋）

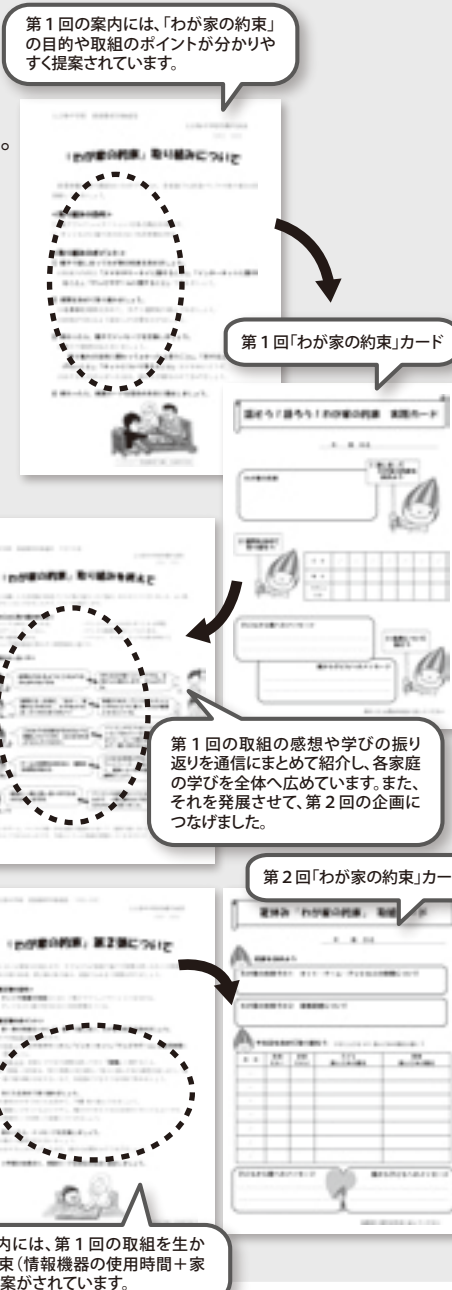
第1回

- ・家族と一緒に話し合いができたので良かったです。（子）
- ・ゲームの時間を決めると、勉強する時間が増えたので、時間が守れるようにこれからも頑張りたいです。（子）
- ・守れる日が続くといいね。お母さんも協力します。頑張りましょう。（保護者）
- ・パソコンやスマホについてはだいたい守れているけれどテレビはつい…という時があるね。みんなで一緒に気を付けていきましょう。（保護者）

第2回

- ・ゲームの時間を読書にかえられたので、これからも今回のようにしたいです。（子）
- ・普段あまり親子で読書をしないけれど、取組中は親子読書ができ○が多かったのが良かったです。（子）
- ・親子で触れ合えるよい機会になりました。（保護者）
- ・意識していた1週間は、できない日があっても「次は守ろう！」という気持ちだったと思います。その気持ちがずっと続くようにしましょう。（保護者）

上之保中学校では、6月の参観日に、親子で学ぶ情報モラル講座を実施し、その学びを生かして、第1回「わが家の約束：情報機器の使い方」運動につなぎました。親子のコミュニケーション、目標に向けて一緒に努力することを大切に在宅取組になっています。第1回の振り返りから、内容を発展させて第2回を夏休みに企画し、2つの約束を決めて実施しました。2回の在宅取組を通して、家族で話したり、励まし合ったりすることが増え、親子のコミュニケーションを深めることができました。





1 学校の特徴

岐阜県立飛驒吉城特別支援学校は、平成二十五年四月、岐阜県の最北端飛驒市古川町に肢体不自由者、病弱者、知的障がい者の小学部、中学部、高等部の児童生徒を対象に開校した学校です。

隣接する飛驒市立古川小学校とグラウンドを共有しています。市街地にあり商店街、観光施設、図書館等が歩いて行ける場所にあり、地域の方と触れ合える機会が多くある環境に設置されています。

開校三年目となり、少しずつ増えた児童生徒は、三十六名になりましたが小規模な学校です。

当校の教育目標は、「地域で育ち、学び、共に生きる」です。児童生徒が生まれ育った地域で、いろいろな人たちと共に生活していくために、二人一人の障がいの状況や能力に応じて、個々のもてる力を高めるように、地域の方々の協力を得ながら、様々な体験学習を取りいれて活動しています。

2 各学部の取り組み

○小学部

小学部では、隣接する古川小学校の図書館の利用や、読み聞かせ活動を行っています。昼休みには、グラウンドの遊具を一緒に楽しむ姿も見られます。また、地域の人形サークルの方に劇の取り組みを見てもらったり、花菖蒲作りの方と一緒に花を育てたりする活動をしています。



▲小学部 古川小との読み聞かせ活動



▲花壇

す。また、小学部高学年の子ども達は、飛驒古川駅周辺や学校の周りのごみ拾いを通して、働く経験、人に役立つ経験を積んでいます(町中ふれあいジョブ)。

これらの体験学習を通して、公共の場を利用する態度や同年代の子ども達とかかわることができています。

○中学部

中学部では、商店街の方に直接電話で依頼したり、インタビューに出かけたりして、調べ学習を行っています。そば職人の方にそば作り



▲中学部 そば打ち体験

用している方にプレゼントしています。地域の方と触れ合うことで、自分から挨拶したりする姿が多くなっています。

○高等部

肢体不自由のある生徒は、中学校の教科書を使つての学習に取り組んでいますし、訪問教育の生徒も在籍しています。

高等部では、卒業後に地域の中で、地域の協力を得ながら暮らしていることを考え、地域とのつながりをもつことや職場体験、清掃活動(MSリーダーズ活動)などを通して働く力をつけています。作業学習などの授業で作った手工芸や窯



▲高等部 企業内作業実習

○全校での取り組み

じゃがいも・とうもろこし収穫体験では、学校近くの畑で、農家の方に収穫の方法を教えていただきながら、収穫体験をさせていただいています。

飛驒の伝統行事「花もち作り」では、「青龍会」(古川祭りの山車をひいていた地域のグループ)の方々が、学校に白や杓を持参してくださり、一緒に掛け声をかけながら餅つきをしたり、木のかぶに集まり、枝に餅を一緒に飾ったりしています。また、伝統の獅子舞を見せていただいたりもしています。

3 PTA活動の紹介

当校のPTAは、すべてのPTA役員及び会員が三つの専門委員会のどれかに所属して活動しています。

○進路研修委員会

研修会や施設見学などを企画し、保護者同士の交流促進と学習の場などを保護者に提供しています。今年度は、防災についての研修会などを行いました。防災についての研修会では、近年大規模化する自然災害に備え、市役所の方から、地域の現状や今後の取り組みについて、お話を聞きました。非常

時の児童生徒、個々に適した対応・環境を考え、日頃の防災に関する意識を高めるよい機会を得ました。

○広報委員会

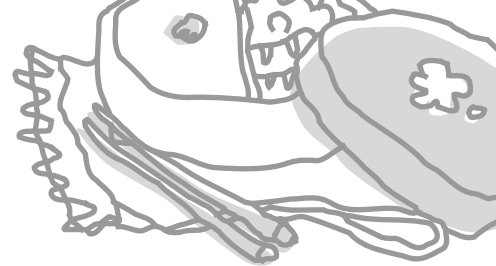
年二回PTA会報誌を発行しています。学校での子どもたちの様子、学校行事、PTAの活動などの様子を紹介しています。地域の方にも知ってもらえるように、飛驒市内全戸回覧を行っています。

○厚生委員会

ベルマーク運動やアルミ缶の回収を行っています。委員会を開催するときには、全保護者に呼びかけ、整理を行いながら、保護者同士の交流を図る機会としています。

○PTA全体の活動

地域の方が見に来てくださる学校祭に、PTAバザーを行っています。地域の広報誌などにも呼びかけて、たくさんの方のバザー商品を集めることができます。また、「青龍会」の方々の協力を得て、今年初めて、親子夏祭りを行いました。地域の方の協力のおかげで、祭りの雰囲気をも十分に味わうことができました。



「感謝の心」を子どもたちに育んでいくと

●「手づくりお弁当の日」の始まり

私たち大垣市立東中学校PTAは「食育」の目標を受けて、「感謝する心」を育て「ものをつくる喜び」を味わうことができることを願って活動に取り組んでいます。全校生徒がお弁当作りに取り組むことによって「食育」の大切さに気付くとともに、家族の絆を深めるために平成二十二年度より「お弁当の日」をスタートしました。

●「お弁当の日」を実施した後の感想

子ども達からは、「第一群から六群までの食材を全て取り入れて作る事が出来た」「道具を使い時間短縮した」「濃い味付けにならない様にした」「食材選びから、しっかりと考えることが大切だと思った」といった家庭科の授業を生かした感想。そして「彩りなどを考え、母と話し合ってた」「母と、いつもとは違う会話ができ楽しかった」という、ふれあうことに関する感想がありました。なかでも多かったのは、「とても時間がかかったので、毎日料理を作ってくれる母に、感謝したい」「朝は、お弁当と朝食の両方をしなくてはいけないから大変だと思った」「作る事の大変さとありがたさを感じる事が出来た」と言った感謝の感想です。こういった声を聞いた事は、心が温まりとても嬉しい事です。「夢は調理師なので習ったことを生かしたい」といった夢を聞かせてくれた子どももいました。とても素晴らしい事です。お弁当作りに、自分の将来への大きな可能性を感じました。

保護者からは、「私のお弁当も作ってくれて嬉しかった。また、作ってね」「自分の好きなおかずが作れるからいい」「一緒に作れて

楽しかった」「お弁当が腐らないように、工夫できた」といった親子のふれあいについての感想が多く聞かれました。

●手作りお弁当の振り返り

学校では、次のような六つの観点で自分のお弁当を振り返りました。

- 一、小学校や中学校の家庭科の授業で学んだことを、お弁当作りに生かしましたか。
- 二、旬の食材を使い、栄養のバランスや彩りなどを考えながら、お弁当の献立をたてることができましたか。
- 三、朝・夕・間食のことを含めてお弁当の献立を考えることで、自分自身の一日の食生活を見つめることができましたか。
- 四、調理に関わった方々や生産者の人々といった多くの人々に支えられていることを考え、感謝の気持ちを込めて残さず食べることができましたか。
- 五、今回のお弁当を作るときに、おうちの方と相談をしながら作ることができましたか。

六、夏休みのお弁当作りや、今までの自分のお弁当作りの経験をもとにして、さらに工夫したお弁当を作ることができましたか。

どの項目についても、非常によくできた、よくできたと答えている生徒が多かったです。

また、「新しいメニューに挑戦したり、手順を考えたりして手際よく作ることができた」「お弁当のご飯やおかずの詰め方を工夫できた」と答えている生徒がいました。

お弁当の日

大垣市立東中学校PTA

●夏休み一研究一作品における取組み

今年の夏休みの一研究一作品では、お弁当作りに取り組んだ生徒が七十二人いました。全校生徒のおよそ一割になります。岐阜県の技術・家庭科部会主催の「あなたのためのおべんとう」作りに応募したところ、二年生男子三人によるチームが書類審査を通過しました。このチームは、十一月三日に行われた「ものづくりフェア大会」(県大会)に出場し、お弁当作りに挑戦しました。当日、準備した食材で限られた時間の中で力を合わせてお弁当を作りました。結果は準優勝と好成績を取ることができました。こうした取組みは、それぞれの家庭の協力があつてこそ実現します。

今後も、学校と家庭と連携を図りながら、お弁当づくりや食育を通して、つくる喜びや、作ってくれた人に「感謝」する気持ちを育んでいきたいと思えます。

●保護者への願いと今後の課題

近年、「生活習慣病の低年齢化」が叫ばれています。運動不足と並び、食の欧米化、野菜の摂取不足、朝食欠食といった食生活の乱れも一因だと言われています。学校行事としてのお弁当作りの経験を生かして子どもたちの健全な食生活への関心を高め、見直す事、そして改善していくことが、子ども達が大人になった時の健全な食生活に繋がるべき第一歩ではないかと思っています。

そんな子ども達の経験は始まったばかりです。お弁当を作る事だけでなく、メニューを決め食材の買い出し、作る手順、後片付けなど子ども達が学ばねばならない事は沢山です。

子ども達の将来のために一緒に取組んでいきたいと考えています。



保健室ノート

●御嵩町立上之郷中学校 養護教諭
上野 清美

8028を願って

「歯と口の健康教育のスタート」

平成十八年度に前任校の上之郷小学校に赴任するまで、歯と口の健康教育は、主に家庭でやるべきものではないかと考えていた私でした。上之郷小学校で学校歯科医の先生のご協力をいただきながら、学校の保健活動の重点として取り組むことになり、戸惑いもいっぱいありましたが、子どもたちの歯と口の健康を考え、自分の歯を大切にできる子にしたいという願いを大切に取組がスタートしました。

「歯みがきをしっかりとしよう」から始まった取組でしたが、子どもたちの歯みがきの技術はどんどん上達し、歯と口の健康に関する意識も高くなり

したが、意外な反応に、びっくりしたと同時に、子どもたちの歯みがきの習慣が身に付いていることが実感でき、とても嬉しい気持ちになりました。

また、高校生になった生徒の保護者から、「高校にも歯ブラシを持っていていきますよ。」と言葉をかけていただくことがあります。高校生になっても歯を大切にしていることを知ることができ、生徒だけではなく、保護者の方たちにも、歯と口の健康に関心をもっていただいていることを感じることができます。

歯と口の健康教育に取組み、継続す



▲給食後の歯みがき



▲生徒保健委員によるカラーテスト

ました。また、PTAによる「手づくり歯みがきカレンダー」の作成など、保護者の活動も始まり、子どもたちの意識が高くなることが、保護者の方たちの意識向上につながっていくということが取組を通して実感できました。学校と家庭が一緒になって取組む健康教育の楽しさを、味わうことができた五年間でした。

「継続すること」と

「家庭との連携」の大切さ

縁あって、平成二十三年度からは、上之郷小学校の子が進学していく上之郷中学校に赴任することになりました。中学校でも歯と口の健康教育ができるのだろうかと不安でしたが、小学校で学んできたことを継続させてあげたいという強い願いをもち、中学校でも歯と口の健康教育に取組みました。

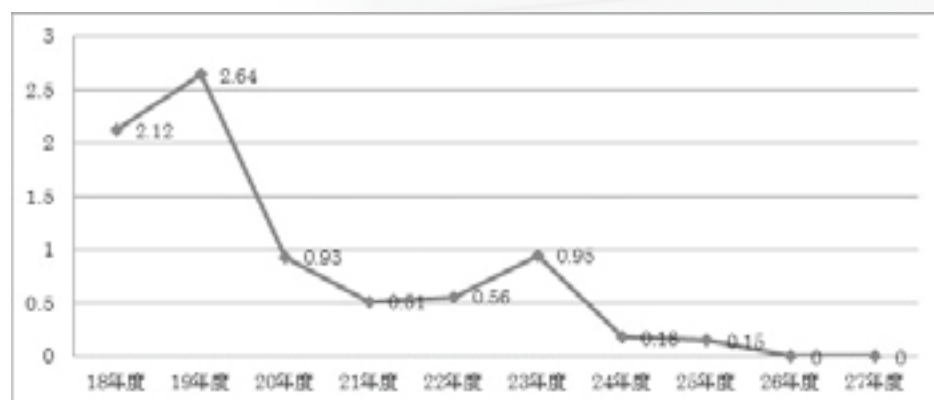
ることの大切さを子どもたちの成長から学ぶことができました。

また、子どもたちの歯みがきの技術や意識の高さは、学校だけの取組の成果ではありません。家庭の協力があってこそその成果だと思います。学校と家庭が連携して健康教育に取り組むことの大切さも学ぶことができました。

8028

全校生徒三十九名の四月の歯科検診結果。生えている永久歯の本数は、全部で一〇四八本。一〇四八本中、むし歯になっている歯は、なんと〇本でした。

未処置歯も処置歯も一本もありません。歯科検診の時やカラーテストの時に、上之郷中学校の生徒たちは自信をもって大きな口を開くことができます。中学校卒業後もこの状態を保ち、八十歳になった時に二十本ではなく、二十八本の自分の歯がある、おじいさんやおばあさんになれることを願っています。



▲DMF指数年度別推移

毎月一回行うカラーテスト。カラーテストのある日の給食後の歯みがきは、みんな真剣です。ほぼ全員の子がA判定をとることができています。小学校低学年の頃は歯ブラシが上手に使えず、カラーテストをすると真っ赤に染まっていた子たちが、今では自分の歯並びをしっかりと把握して、一人ひとり自分に合った歯のみがき方を工夫して、みがけるようになりました。

「口臭の予防」の授業を行う前日に、「今夜から明日の朝まで、歯みがきをしてはいけません。」という宿題を出してみました。子どもたちからは、「嫌だ。」「気持ち悪い。」「うがいはいしてもいいの?」「デンタルリンスは使った。小学校一年生からずっと、歯みがきをしなさい。」と言われてきた子たちなので、「歯みがきをしてはいけません。」という宿題は喜ぶのかと思います。

私の先生

岐阜市立岐阜小学校 教諭

武藤 裕子

小学校一年の時

私は、幼児期、弱視だったそうです。どのような不便さがあったかは全く記憶にありませんが、現在の岐阜市立図書館、メディアアコスモスの地にあった大学病院に通院していたことを憶えています。多忙な母に代わり、祖母とエタノールのにおいがする待合室の長椅子で、のんびり絵本を読んでもらったことや、花屋の前のバス停で帰りのバスを待ち、制服姿の車掌さんの肩掛けバッグにわくわくしたこと等（当時は路線バスにも車掌さんがいました）が、今は亡き祖母の面影と共に懐かしく思い出されます。

けれども、ちょっと楽しかった「目」の思い出は、小学校入学を機に、苦いものとなりました。小一での眼鏡はまだ珍しく、しかもデザイン性もなく、赤の太縁、厚いレンズは、恐ろしく似合っていなかったはずです。「メガネザル、メガネザル。」と、ガキ大将（死語でしょうか）に随分からかわれました。後で思えばとても明るく、ずっと仲良しの子達でしたが、その時の私は重く受け止めたでしょう。すっかりおばさんとなった今なら「可愛いでしょ！」と、言い返すところですが、当時はなにしろ幼かったです。登校を渋ったこともしばしばでした。母も随分心配し、それならばとコンタクトレンズにしたのですが、何しろ半世紀も前のこと、今よりフィット感もなく、痛いし充血するし・・・これまた辛い経験で、また眼鏡に戻りました。余談ですが、当時コンタクトレンズはかなり高価だったそうで、経済的にも苦しい中、私のために購入してくれたことを今改めて振り返ると、感謝の思いがわき出しますが、当時は「何で私ばかり・・・。」と、親に恨みの気持ちさえ抱いていたのではないかと思います。

当時の担任は、恰幅のよい男性のT先生でした。そんな私に「眼鏡はいいね。」から始まり、「似合う。」「だから賢いわけだ（盛ってます。笑）」等々、ひたすら肯定し、ほめ続けてくださいました。照れ臭さはあったものの、根拠のない自信がついていき、いろいろなことに積極的になっていったことを思い出します。授業参観で、私一人が手を挙げ、「えんぴつが一本」という歌をフルコーラス大きな声で独唱したことはびっくりしたと母が言い、その後時々我が家の笑いのネタになりました。ひよっとしたら、私の知らない所からかっている子ども達に指導があったのかもしれない。でも、コンプレックスに苛まれて小学校のスタートをした私に、年齢に合ったやり方で自信を持たせてくださり、小学校生活に適応できるようにしてくださったのは間違いないT先生です。

小学三年生

運動もあまり得意ではなく、鉄棒の逆上がりといったら、外国の雑伎団の世界のようなものでした。ある放課後、遊びの延長で逆上がりの練習をしていたのですが、当時担任のY先生も一緒にしました。数名いたはずの友達は何の遊びになったのか帰ったのか忘れましたが、私だけ何となく続ける状況になっていました。やめるにやめられなかったのかもしれません。続けるうち、ついにできるようになりました。とても嬉しかった。その時の手のひらの血豆と、夕日が綺麗だったことを覚えています。ドラマチックでした。一、二年経つとまたできなくなったし、相変わらず他の運動はその後も低空飛行のままでしたが、逆上がりができたことは私の金メダルです。「やればできる」とばかりではないことは、長い人生の中で遭遇する多くの場面で分かっています。「やればできる」ということはこの時の経験で残った事実です。「頑張ってみい。」と、言いながら見ていてくださったY先生のお陰です。

「私の先生」というテーマですが、「大きな影響を受けた先生はすぐに思い当たらないし、困ったな。」と、思いました。でもそれは、「振り返る」という作業をしなかったに過ぎず、ここに書かせていただいたお二人に限らず、歩んできたそれぞれの時期で、背中を押してもらったこと、反省させてもらったこと等、数え切れません。

また、教師になってからは、「私の先生」は、まさにたくさん出会った子ども達でもありました。これから先も、どんな「私の先生達」に出会えるか楽しみですが、それと共に誰かにとっての「私の先生」が私であれば、それもまた、嬉しいなあと思っています。

『わが子と私の歩み』



我が家には、二歳のときに『広汎性発達障害がい』と診断された現在六年生の息子『Rくん』がいます。発達障害はいは先天的な脳機能障害の一種で、コミュニケーションが苦手だったり、通常の生活に困難があったりすることがあります。得意と不得意の差が大きい場合が多く、みんなと同じようにできることもあれば、中には極端にできないことがあり、周りに理解されないことも時折あります。

文科省の二〇一二年の発表では、全国の公立小中学校約五万人を対象として調査した結果、通常学級に在籍をする『発達障害の可能性がある』とされた児童生徒は六・五%です。つまり一クラスに二人くらいは発達障害の傾向があるということになります。

『Rくん』は、小さいころから手がかる子で発語も遅く、些細なことでもパニックを起こし、外に連れ出すことが困難でした。一歳半検診に連れて行くこともためらい、半年後によく連れて行き、そこで『広汎性発達障害がい』という診断を受けました。

保育園に入園後もみんなと同じことができない。まだ言葉が出ない。話せない分お友達に手が出てしまう、保育園の先生にもお友達にも迷惑をかけていると思い、私は毎日毎日不安で心配ばかりし、またそんな自分を責め、体調を崩していました。

ある日、まだ小学校低学年の娘に、「保育園の他の子と比べて『Rくん』は大変だけど…お姉ちゃん

私は学年行事があるたびに撮影に行きました。そうすると『Rくん』のお母さん！「こんにちは」『僕の写真も撮って！』と声をかけてくれる子が増えてきました。中には「僕、今日、先生に叱られたんだよね」「私、将来はお花屋さんになりたいの」と自分の話してくれる子もいました。

子どもたちが声をかけてくれるので、だんだん私も子どもたちに声をかけるようになり、あいさつだけでなく「〇〇くん、さっきの合唱すごく上手な声が聞こえていたよ！」「〇〇ちゃん、困っていた子にやさしく声をかけていたね」その子その子の素敵などところを見つけて声をかけてあげると、とても素敵な笑顔を見せてくれて、わたしも笑顔にしてみることができました。

そんな中、広報委員長代理で本部役員会に出席させて頂く機会がありました。PTA本部役員さんたちは、きつとすごく大変でピリピリしているんじゃないかと勝手に思い込んでいたのですが、みなさん子どもたちのために前向きに笑顔で取り組んでいる、とても仲良く楽しそうでした！

翌年、『Rくん』が二年生に進級する際、縁があって本部に入らせて頂き、そこから今日まで、母親委員三年、副会長二年と務めています。

ただ、多忙な時はわが子をお留守番させることが多く、夕飯に『カレー』を作ると『PTAで出かけるの？』と言われるようになってしまいました。

PTA活動を行う中で、家のことや、わが子がほっ

はイヤじゃない？」と思わず聞いてしまったことがあります。

そのときの娘の返事はこうでした。

「『Rくん』は『Rくん』だから別にいいじゃん」

「『Rくん』は、いつもニコニコしてるよ！」

この言葉は毎日心配で不安で後ろ向きだった私の心に衝撃を与えました。娘のおかげで少しでも前向きに頑張ろう。そう思い始めることができました。

その後、『Rくん』は、先天的な脳血管の奇形により脳出血を起こし、生死をさまよいましたが奇跡的に命をとりとめ、脳出血による後遺症も残さず、小学校に無事入学。通常学級に在籍しながら、週に二回、個別の指導をしてくれる通級指導教室に自校内で通うことになりました。

ただ、同じ保育園のお友達はみんな別の小学校へ…私も『Rくん』も知っているお友達がいない状況でした。人見知りの私はいきなりママ友達を小学校で作るのも難しいので、そうだと広報委員をやってみよう！と一念発起、立候補させて頂きました。更にその時の広報委員長さんのお声掛けで広報副委員長を引き受けたのが、日野小学校PTA役員を六年も続けさせて頂いた最初のきっかけです。

これで心配な息子の様子を時々見る機会もできるし、クラスのお友達の名前や顔を知ることでもできるし、他の保護者の方とお話をする機会もできるかも…と、最初は、わが子のためだけに始めた役員でした。

たらかしだなあと思うこともありますが、その反面、出会ってきた人たちに我が家を支えて頂ける機会がとて増えたと感じています。『Rくん』を発達障害のいのある無しに関わらず受け入れてくれて、褒めてくれたり、話しかけてくれたり、優しくしてくださる皆に感謝しています。

私は、PTA活動を通して、学校や地域の方が子どもたちのために、たくさんの方々の支援をしてくださっていることを知りました。さらに私たちのPTA活動が、多くの子どもたちの笑顔につながっていることも知りました。

個人的なことですが、わが子のことだけではなく、地域全体に向けて『発達障害のいへの理解』を深めるために活動をする中で、

「まずは知ることが大切だから」

「棚橋さんに出会えて、困っている子がこんなにくさんいることを初めて知ったよ」

「実は、わが子も発達障害のいがあるんだ。一緒に頑張ろう！」

「ここまで頑張ってきたんだから、続けなきゃいけないよ！」

と声をかけ背中を押してください、本当にたくさんの方に協力して頂き、励ましてもらいました。

これまでの多くの方との出会い、笑顔をみせてくれた多くの子どもたち、そして、わが子、家族に感謝したいと思います。これからも、笑顔を忘れずに…。

ありがとうございました。

ボランティアニュース

vol.8

子どもの絆を深める ボランティア活動

養老町立広幡小学校PTA

広幡小学校では、毎年、PTA等がボランティアとして企画運営し、「ふれあい広場」を行っています。学年が均等に入った班を十班作り、子ども達が校内をオリエンテリングのようにまわって、軽スポーツをしたり、問題を解いたりして、互いの絆を深めるものです。軽スポーツや問題を考えるのはなかなか大変です。

当日は、「出来たよ」「こは、こうじゃない」という子ども達の思い思いに話す声が響き、普段は静かな子が「〇〇君、すごい」と言われて照れながら話す姿も見られ、笑顔があふれていました。そして、子ども達と交流する保護者も笑顔いっぱいでした。活動の最後に、円座を作ってカラーライスを頬張る様子がとても微笑ましく、何度もお代わりする姿から、ボランティアの私たちが、たくさんの

元気をもらいました。

これからも、子ども達のために寄り添った活動が続けていきたいと思っています。



美しく整った環境に感謝

養老町立笠郷小学校PTA

夏休みの最後の日曜日、保護者、先生方と児童、それに消防団の方々、三〇〇名程の皆さんで、外作業を中心にクリーン活動を行いました。自然に恵まれた本校では草が多く、背丈も伸びていました。また、側溝には校庭の砂が入り、水が流れにくい状態になっていました。一時間ほどの時間できれいにできるのかなあと心配するほどでした。

側溝も一つ一つ蓋や棧をはずして、全ての土砂をきれいに取り除いていただけました。大変な重労働でご負担をおかけしましたが、男性の方のお力が多かったため、大変ありがとうございました。さらに、少年団などで運動場を使用される方からは、一学期から何度も進んで除草作業をしていただき、誠にありがとうございます。美しく整った環境の下で、のびのびと学ぶことができる子ども達の幸せを感じています。



子ども達も給食棟の掃除、二階教室や昇降口などの窓ふきにと汗を流し、熱心に取り組んでくれました。「きれいにしよう。」とする姿に頼もしさを感じました。

また、昨年度から、消防団の方のご協力を頂けるようになり、運動場のフェンス近くの側溝や昇降口前の

子供たちのために...
おやじの会!?

養老町立東部中学校PTA

自転車置き場の黄線が消えてしまて子供たちが自転車をきれいに並べる事ができず、と先生の声!!
これはと思い!!
3年生の保護者(お父さん)限定でボランティアという形で募集。
△案内のウラ面に思いを書きました



8月の暑い中、自転車置き場のライン引きと、庭のパンキ塗りを行いました。作業中、参加されたお父さん方々からは、3年間子供が世話になったからとか、学校に来る機会が少なくなったから参加させてもらったなど、色々なお話しが聞けました。先生方とも一緒に子供たちのためにがんばって頂きたい。夢中になりすぎて12時過ぎの予定が3時間行いました。

ひよしコミュニティ・スクール 環境整備作業

養老町立日吉小学校PTA

日吉小学校では、今年度よりコミュニティ・スクールとしての活動を行っています。PTAもコミュニティ・スクールの家庭教育を担う「きずな部会」としての活動を進めています。夏休みの環境整備作業も、PTA会員だけでなく、地域の方々にもたくさん参加していただき、コミュニティ・スクールの活動として行いました。



運動場の草取りだけでなく、校舎の窓拭き、側溝や非常階段の掃除、垣根の剪定など、普段子どもたちが掃除できないところを中心に学校をきれいにしました。見違えるほど美しくなった校舎や運動場で、子どもたちが元気いっぱい活動する姿が目に見え、みんなとても喜びました。

子ども達のために保護者だけでなく地域の方々も一緒に汗を流し、地域ぐるみで子ども達を温かく育てるコミュニティ・スクールと





しらんぷり
梅田俊作／桂子 作絵
ポプラ社

岐南町立東小学校PTA副会長
小島 篤史



「いじめ」という問題に正面から取り組んだ絵本であり、絵本としては異例とも思えるくらい厚く、

長い絵本です。

この本との出会いは父から勧められたことがきっかけでした。父は本が大好きなので影響して私自身もたくさん本を読んできました。子どもたちへの読み聞かせも行ってきたつもりです。しかし、この厚さでこのお話の長さには驚かされました。このようなインパクトのある絵本に初めて出会ったので皆さまにも知っていただきたいと思い選びました。付け加えてこの絵本を読んでいて大人である私でもたくさん事を考えさせられる内容だと感じました。

大人の世界にも「いじめ」の問題が多々取り上げられることもありますので、大人も一緒になって「いじめ」について正面から向き合える内容となっています。

「いじめ」がいけないということとは子どもたちもわかっていると思います。学校での授業はもちろんテレビのニュースなどでもたくさん取り上げられています。この本は「いじめ」がどうして起こってしまうのか、その筋道を主人公の子どもに寄り添って考えお話が進んでいきます。

長いお話ですから、まだ二年生の娘には難しい部分もたくさんあ

ったと思います。

しかし、自分の事として感じながら真剣に聞いたり自分で読み返したりしていました。絵本の中の場面でも子どもと大人との関わり、場面になるとホッととして、自分がいじめを知っても「しらんぷり」をしてしまいう場面では息をのむように絵本を見つめていました。

娘が、「いじめって、このちょっとしたことではなかったの？」と疑問を持ったように、ほんのささいなことが「いじめ」の始まりになるという事を絵本で取り上げているのです。「いじめ」が連鎖するという事も描かれています。

「いじめの加害者」と「いじめの被害者」は紙一重であるということがこの絵本を通じて多くの方に届くと良いと思います。

今、現代の「いじめ」問題にこの絵本を子どもたちに読み聞かせたからといって、無くなるというほど簡単な問題ではないでしょう。でも、学校の教室で、ご家庭で子どもたちと一緒にこの絵本を読みながら「いじめ」という内容を主人公に寄り添いながら「追体験」した子どもたちは、きっと当事者になる辛さ、傍観者の苦しみを感ずる事ができるのかもしれないと

思います。

「いじめ」が起きてからの対策というより「いじめ」が起きないように、起こさないような雰囲気作りを教室で、友達作りを親子で願いながら読んでいただけたらと思います。

三途の川で落しもの

西條奈加 著
幻冬舎

高山市立国府中学校PTA

米村 祐三子



この本は、好きの姉が薦めてくれたものです。子どもの頃から続く姉のおススメ本は推理小説からファンタジー、時代小説にまで及び、どれも私に新しい世界を魅せてくれるのですが、この本はそ

んな様々なジャンルが混在する不思議な物語です。

実はこの本を手にとったときは「三途の川」というタイトルのため、さほど期待を持たずに読み始めたのですが、想像と違ったその物語は、ファンタジー＋現代の闇＋友情＋江戸のエッセンス、そしてやはりタイトルの通り生死について考えさせるものでした。

主人公は小学六年生の男の子、叶人。冒頭でいきなり病院のベッドの上で包帯を巻かれて横になっています。そしてその自分の姿と泣き叫ぶ家族の姿を天井から見えています。

「そっか、おれ、死んだんだ。」そう思ったとたんに心が軽くなり、空に向かって飛び出して行きます。

たどり着いた河原では死に行く人たちが三途の川を渡っていきませんが、そこにいる鬼たちは通常のそれとは違っています。存在している姿形のない鬼は、人間のイメージした通りに見えるため、ゲームのキャラクターやパソコンを手にしたサラリーマンの姿をしています。所々の描写が現代っ子らしく、重くなりそうな内容も軽快に読むことができます。

「学校近くの橋から十五メートル下の川に転落し、現在意識不明の重体」。鬼のパソコンからの情報で叶人は自分がまだ死んでいないことを知りますが、転落した時のことを思い出そうともせず、現世に帰ろうともしません。

その心中を推し量った鬼は、三

途の川の渡し守に叶人を預けて様子を見ることにします。

前世が江戸時代の渡し守たちは、やさしげな顔立ちの武士・十蔵と柄が悪い大男の町人・虎之助。まるで助さん、格さんのような二人と船に乗ることになった叶人は、人の死と向き合っていきます。

手術を控えた娘を残した母親、ひきこもりの息子に刺された父親、無差別殺傷事件の犯人：現世に心残りがある人が船に乗ると川が荒れ、死者の罪の重さを量る地藏王が船から現世に落ちてしまいます。それを取り戻すために三人は東京の町に何度も降りていきます。

叶人は事件の背景を通して、親子の愛情や心の闇、天国と地獄の意味について考えます。そして、

十蔵と虎之助の背負っている業や悲しみ、また、時代によって違う死の重みや昔の日本人の強さを知っていきます。

現代の服に慣れない二人、ガラスにぶつかり、電車やラーメンに喜ぶ。共に笑い、戦い支え合いながら、三人には心の奥に友情が生まれていきます。

そして様々な経験から強い心と広い視野を持ち始めた叶人は、自分の問題を見つめ直して立ち向かい、生きる力を身に付けていくのです。



P.N: 二次元 (多治見市)



P.N. なつ (揖斐郡)

QUESTION -1

池に落ちた子どもは、男の子？女の子？



出題・坂井彩夏 (各務原市)
〈答えは41ページ〉

★子の思い

がんばった運動会

川辺町立川辺西小学校

三年 山田 有

九月十九日土曜日、川辺西小学校で運動会がありました。すごくいい天気でした。

八十メートル走は練習の時から、一位で走っていたので、自信がありました。本番も転ばずに一位が取れてすごくうれしかったです。

台風の際はスタートがよかったのと、三年二組のチームワークがよかったので、一位が取れたと思います。目が回りそうだったけど楽しかったです。

おうえん合戦は、練習をいっぱいがんばったので声がかれましたが、本番も力いっぱい声を出してがんばりました。負けてしまってもくやしかったです。

ダンスは、笑顔で心の中で歌いながら、まちがえすに楽しくおどることができました。

と中までは赤がかったいたけど、午前の方が終わってみると赤が負けていました。だから、さい後の高学年せん手リレーでかてるように、一生けん命おうえんしました。でも、さい終てきには赤組は負けてしまいました。

来年の運動会こそは勝ちたいです。

大切な家族

高山市立江名子小学校

四年 輪湖 太一

ぼくの家族は、お父さん、お母さん、ぼく、ふたごの妹の五人です。親せきの家に、ごはんを食べに行つて帰る時は、家までみんなできようそうする様な、元気いっぱい家族です。

そんなぼくの家族を、食器に例えてしようかします。

お父さんは、剣道をやっていてとても強くて、ぼくがぶつかってもびくともしないので丈夫なマグかつぶです。お母さんは、

せんたくをしたり、ごはんを作ったりして、家事をしているので、毎日かかせないごはん茶わんです。ぼくは、剣道をならっているし、日本のおしろがすきです。まわりからよく「しぶいね」と言われるので湯のみです。ふたごの妹は、遊ぶ時も、勉強する時もいつもいっしょで仲よしです。だから、二本ないと困るので、はしです。

家族といくと、ぼくはすごくしあわせです。剣道をいっしょにしたり、みんなで旅行に行ったりすごく楽しいです。夏休みには、福井県にあるきょうりゅうはく物館や東じんぼうに行き、夜は旅館にとまっておいしいごはんを食べたり、温せんに入ったりして楽しい思い出ができました。

これからも家族仲よしで、いろいろな楽しいことをしたいと思います。

一人が笑顔になれば、きつと広がる笑顔

郡上市立三城小学校

六年 鈴木 日菜

家族が仲良く笑顔でいること。これは、私にとつても、家族にとつても大切なことです。私のすぐ身近な人が仲良くいる事。そこにある笑顔は、いつも私を元気にしてくれます。

学校で係の仕事を生懸命に頑張ったのですが、うまくいかず落ち込んで帰った日がありました。暗い顔をした私に母は、「いつもお母さんは、あなたのことを応援しているよ。失敗してもいいから頑張つて。」と言ってくれました。わたしは、母の言葉と笑顔で、とても温かい気持ちになりました。次の日、母の笑顔に元気をもらった私は、係の仕事をしっかりとやりきることができました。その日は、一日中笑顔でいられました。

以前、金子みすずさんの詩を読

んだことがあります。その本には、「一人が笑顔になれば、きつとすべてが笑顔になる。」とありました。その言葉通り、母一人の笑顔は、私を笑顔にしてくれました。さらに一日中幸せな気持ちにしてくれました。笑顔の力ってすごいと思います。

家族にはいつも笑顔でいてほしいと思います。そして、私もいつも笑顔でいたいです。家族の笑顔が増えていけば、家族以外の人の笑顔も増えていくと思います。家族だけではなく、私たちの学級はいつも笑顔があふれています。

す。誰か一人が笑顔じゃない時も、誰かの笑顔が、学級を明るくしてくれます。みんなに広げられるように、これからも笑顔を大切にしていきたいと思います。

受け継がれる不破中の想い

垂井町立不破中学校

三年 福本 雄大

僕は、生徒会長として半年間で様々な経験をしました。その中で、今まで気づくことのなかった不破中のすばらしさを発見することができました。

その中に、地域と交流し、地域に貢献するという姿があります。不破中はボランティア活動が盛んです。僕が地域の資源回収に参加したとき、こんなことを言われました。

「今の不破中は、受験生でもボランティアに参加してくれるのか。」僕はとても誇らしく思いました。

また、団体として地域に貢献しようというグループもあります。MSJリーグです。垂井警察署の方々に任命されたメンバーが地域のゴミ拾いを行ったり、挨拶運動などを行ったりし、地域の安

全と活気につながるよう活動しています。

さらに、垂井北中学校と連携した「垂井つ子YAO!」というグループもあります。垂井町出身の大学生、高校生、地域の方々や先生も参加しているグループです。年に数回熟議を行い、垂井町について話し合います。この熟議には、地域の方々から様々な意見を聞くことができるので僕たちにとって、とても貴重な体験です。このように不破中には、ボランティアで地域に貢献する姿があります。

～食育への生かし方～

27年度 学校給食調理発表会 作品集④

優秀賞
美濃加茂市学校給食センター

チーム名「チーム あじさい」



<献立>大豆入り黒米ごはん・牛乳

高野豆腐のカップ焼き

夏野菜の味噌汁・切干大根のごま和え

山の上のなし

<献立について>

成長期に必要な「鉄・カルシウム」がたっぷり摂れる献立です。鉄・カルシウムの多い食材(大豆や大豆製品、乳や乳製品、色の濃い野菜、ごま、海藻類、切干大根)を使って調理しています。カップ焼きは、高野豆腐に牛乳をしみ込ませて、他の材料と混ぜ合わせてオーブンで焼くだけの簡単な料理です。可茂地区の給食でも人気の一品です。地域の特産品である黒米を使ったごはんは、大豆の菌ごたえや香ばしさと一緒に味わってほしいです。ごはんともみそ汁、ごま和えの組み合わせで、鉄・カルシウムも多くとれます。

(献立作成者) 栄養教諭 藤井千穂

(発表者) 星月佳菜・小森広子・織部照美

資料提供…(公財)岐阜県学校給食会

運動会での出来事です。応援合戦の準備をしていると、参観してみえた卒業生やかつて不破中に勤務してみえた先生方が手伝つてくださいました。このとき僕は、やはり不破中のもつ地域との絆は素晴らしいと感じました。同時に、先輩が積み上げてきた不破中のボランティアへの思いを大切に、さらに広めていきたいと思いました。

次は、自分が堂々と後輩に引き渡すことができるように、不破中に貢献できる活動をしていきたいです。

★親の願い

親子で知っておきたい情報モラル

海津市立高須小学校PTA

会長 岡田 哲也

現代の子どもたちを取り巻く生活環境は年々めまぐるしく変化し、そのスタイルも大きく様変わりをしてきました。子どもたちの健やかな成

長は、保護者・家族を始め、先生方、地域の方々の願いであり、立場こそ変われども、子どもに寄せる思いは、変わるものではないと信じています。しかしながら最近では、情報端末の急激な発達により、子どもたちが簡単に情報を得られます。

私が子どもの頃は、東京で流行った物が我々の地域に来るまで一年と言われていました。その物が欲しいなら東京に行け、行けないなら来るまで待て、という時代でした。それを踏まえて、今はどうなのか。簡単です。欲しい情報はすぐに手に入ります。利便性は高く、もはや社会生活から切り離す事はできません。使いつつは非常に危険なツールとなることもあり、子どもたちが巻き込まれる事件をよく耳にするようになりました。情報社会といわれる今日、私たち保護者を含めた一人一人が情報化の進展が生活に及ぼす影響を正しく理解しなければなりません。

先日、高須小学校では情報モラルに関するアンケートを実施しま

した。「フィルタリングやペアレンタルコントロールを利用していますか?」の回答が、しているが五十八%、していないが四十二%でした。「なぜしないのですか?」という質問に対し、「知らない」「必要ない」という回答が多数見受けられました。まだまだ関心度が低く、恐らく「ゲームをしているだけだろ」という考えの方が多いのでしょう。しかし、我々保護者が知識をもたなければならぬのです。

高須小PTAは、今後の活動の中で保護者に対する情報モラルに関わる情報を配信していきたいと考えています。危険を回避して安全に生活する知識やセキュリティの知識、ゲーム端末機でも危険が潜んでいる事などを分かりやすく配信し、「たかすっ子情報モラル宣言!」の策定を目指して、保護者・児童が一体となってインターネットの使い方についてのルールを作り上げていきます。

これをきっかけに、親である我々のモラルや知識を見つめ直す必要

がある事に気付いてもらえると思います。

思いやりをもって

美濃加茂市立西中学校PTA

会長 小川 忠

私が子どもたちに願うこと、それは優しさを忘れず愛情豊かな人間に育ってほしいということです。人を愛すること、家族を愛すること、動物を愛すること、愛情と言ってもたくさんの形があります。いつでもどんな時でも人を思いやり、相手の立場になって考えられる人になってほしいと思っています。

私ごとですが、偶然にも私と妻とは名前が「漢字一文字・八画・三文字読み」ということが同じで、結婚したことにより、二人とも姓名総画数が一緒になりました。そして、長男誕生の時には、家族の絆を深めた子どもにも同じ「漢字一文字・八画・三文字読み」の名前を付けてあげようということになりました。その翌年次男を授か

★教育の窓

ソウル(韓国)の学校教育の様子から

恵那市立長島小学校

教諭 小栗 研

二〇二二年四月〜二〇二五年三月までの三年間、在外派遣教員として、ソウル日本人学校で勤務させていただきました。現地(ソウル市内)学校の様子について一部を紹介いたします。

①どうしてみんな英語を話せるの?

「韓国語が駄目なら英語で」「コミュニケーションをとろうとしてくれたた皆さんの韓国人に出会い

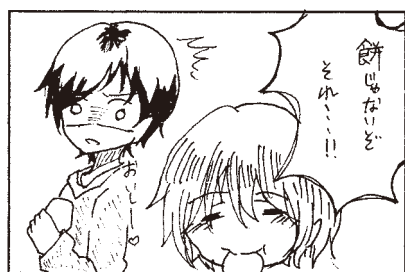
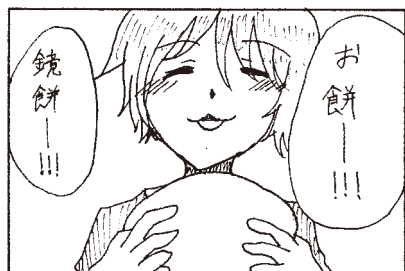
と思います。日々の生活の中で、少しずつでも優しい気持ち、思いやりの気持ちを育てて欲しいです。

話は変わりますが、我が家には子どもたちの成長と共に家族の一員として一緒に暮らしている猫が三匹います。猫たちは、子どもたちと一緒に生きていくことの大切さ、命を守り育てていくことの大切さを自然と教えてくれているような気がします。(ちなみに私、猫アレルギーのため喘息持ちですが猫が大好きです。笑)

中でも貴重な体験だったのは、初めに飼い始めた雌猫の出産に家族みんなで立ち会えたことです。

大垣桜高校 まんが研究部

お正月



逆さ言葉

にんてんどうが
うどんてんに
(任天堂がうどん店に)

出題・赤堀怜希(岐阜市)

ました。
韓国の学校教育の特徴の一つに、「英語教育」が挙げられます。訪問した学校では、英会話教室があり、充実した設備の中で授業が行われていました。

韓国では、一九九七年度より、小学校三年生以上で英語科を必修化し、二〇〇八年度からは、三・四学年は週二時間。五・六学年は週三時間と時間増をするなど、英語教育に力を入れています。

学校を終えてからも勉強は続きます。多くの児童（七割以上）は、毎日のように塾へと通います。基本は英会話で、それにテコンドー、ピアノ、絵画などをかけもちで行っています。

ソウルでは「英語が話せない」と就職できない」ほど、英語に対する必要感があります。さらに、英語を話せることでコミュニケーションの



▲英語教室の様子

輪が広がる素晴らしいさを小さなうちから身近に感じられることも大きいのではないかと感じました。

一方で、日本の教育を振り返ると、学習や生活の規律を大切にしていると感じます。みんなで一つのことを成し遂げる日本の教育の素晴らしさにも改めて気付く機会となりました。

②韓国人の躰はどうなっているの？

「牛乳を飲みながら授業を受ける小学生」

訪問先の現地公立小学校三時間目のことです。子どもたちが牛乳パック片手に授業を受けていました。朝食を食べてこない（食べられない）児童への配慮として、二時間目終了後に牛乳を配布するのだそうです。また、持参した水筒（お茶）を授業中に飲んでよいことにもなっていました。

「茶碗はもってはいけません」

韓国では、食器は置いたまま、ご飯はスプーンで食べるのがマナーです。

韓国の食器類は銀で作られたものが一般的です。これは昔、食事に毒が入っていないかを調べるためのものであったようで、それが現在でも広く使われています。銀製の食器に熱い料理を入れると熱くて持てないため、置いて食べるようになったのだそうです。



▲給食

「脱いだ靴は揃えません」

これは、学校以外で多く見受けられた光景ですが、脱いだ靴を揃えません。揃える時は、日本とは逆向きです。「日本のように揃えるのは、失礼に当たる。来てくださった方に早く帰ってというメッセージになる。」からだを教えてもらいました。

これらの躰一つ一つには、その国（地域）に住む人々の、思いや願いが込められているのだと強く感じた一例です。

日本とは異なる文化や価値観を

はいけませんでした。

ある時、何かのきっかけで、休日練習の始めに敷地周辺のゴミ拾いを始めました。紙屑の他にも空き缶や吸い殻、ペットボトル、ビニール袋など多種にわたるゴミが集まりました。それを仕分けして環境を整えてから練習を開始するようにになりました。監督やコーチからは普段から「野球をやらせてもらっていることや毎回弁当を作ってもらっていることに感謝しているか」といわれていた生徒たちですが、心から気持ちを伝えることは難しいことでもあります。ボランティアで掃除をするようになってから、生徒の表情が澄み

学んだことで、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないのだと気付かされました。しかし当然のことですが、日本にも昔から伝わる躰や習わしがたくさんあります。それらは、他国に誇れる素晴らしい文化であり、私たち独自の文化もまた大切にしなければならぬことも痛感しました。今一度それらの仕草の裏にある込められた

思いを考え、子どもたちにその大切さを伝えていきたいものだと感じています。



▲授業風景

生徒が教えてくれたこと

羽島市立中央中学校

教諭 安藤 洋

「体育の授業でこんなことがあるんですよ。」ある体育科の先生から聞いた話です。最近になって、体育の授業でソフトボールが教え

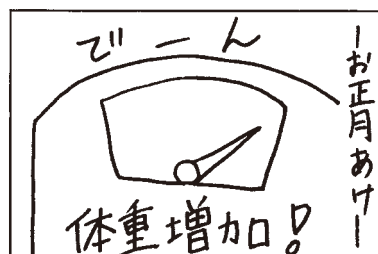
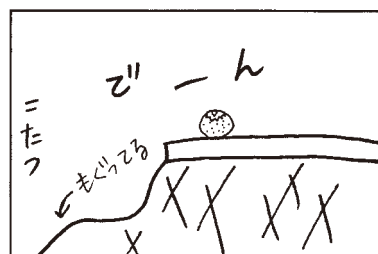
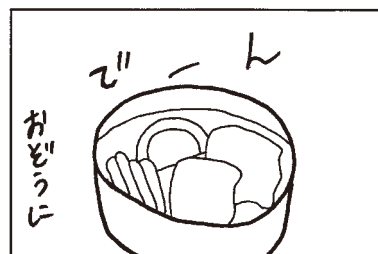
切ったように感じました。

練習試合では粘り強さが出てきたように思いました。その年度は、夏の中学生連では地区大会で負けてしまったのですが、県選抜大会という最後の大会では、決勝まで勝ち進み決勝戦では今まで勝てなかった相手にも勝ち、初優勝。生徒だけでなく、保護者の方とも喜びを共にできました。

現任校でも、よく似た取り組みがあります。週一回の朝美化活動（略してABKと呼んでいる）は、生徒会主催で全校で取り組んでいます。生徒の表情はとも標やかで、私はこの日を心待ちにしています。

大垣桜高校 まんが研究部

お正月



逆さ言葉

おかしがすきすき
すがしかお
(お菓子が好き好きスガシカオ)

出題・古賀来実（大垣市）

11月号クイズ答え

Q1 さつまいも

Q2 ②

11月号のクイズ当選者

伊藤 涼華(岐阜市) 松井 渚紗(郡上市)
赤堀 怜希(岐阜市) 澤 雄太(郡上市)
佐藤 晶之(岐阜市) 伊佐治綾那(美濃加茂市)
古賀 来実(大垣市) 平田 詩織(加茂郡)
池田 琴葉(大垣市) 渡辺 乃愛(瑞浪市)
勝 有萌果(不破郡) 渡辺 芽生(土岐市)
高野 遥(安八郡) 長江 香幸(多治見市)
山岡 潤惺(関 市)

応募方法

応募者は、はがきで、1月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北ハツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 1月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

Q1

①～⑤のことわざにはある動物が登場します。その動物の中で、十二支にはいない動物が1匹隠れているよ。その動物を答えましょう。



① も歩けば棒にあたる

意味 何かをしようとすれば、何かと災難にあうことも多いということ。
何か行動していれば、思いがけない幸運に会うこともあるということ。

② も木から落ちる

意味 どんなにその道に優れていても、時には失敗することもあるということ。

③ の耳に念仏

意味 どんなに意見や注意をしても聞こうとしない。効果のないこと。



④ に小判

意味 価値の分からない人に貴重なものを与えても何の役にも立たないこと。

⑤ に翼

意味 ただでさえ強い物に、さらに他の力をつけること。



Q2

2016年5月に、三重県で主要国首脳会議伊勢志摩サミットが開催されます。

7ヶ国の加盟国がありますが、残りの1ヶ国はどこでしょう。

アメリカ イギリス イタリア フランス

カナダ 日本 ?

ヒント 首都はベルリンだよ

親子ではてな

1月号のクイズ

いつものトラック。ただ繰り返す。

今日も、明日も。

1kmでも長く走ったか？

昨日の自分より、速くなったか？

ゴールは向こうからは、やってこない。

だから近づく。一步一步。

挑戦は、美しい。



立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上



★お試しクッキング★

かぼちゃの
コロッケ



「かぼちゃ」は夏から秋にかけて収穫されますが、厚い皮に覆われているため長く貯蔵することが出来ます。日本では、冬至に「かぼちゃ」を食べるように、野菜が少なくなる冬に、保管しておいた「かぼちゃ」を食べていました。実際、収穫時の「かぼちゃ」にはでんぷんが多く含まれており、時間が経過するとともに熟成し、でんぷんが糖分にかわり、甘みが増しておいしくなるそうです。昔の人は知らず知らずのうちに、おいしい食べ方をしていたのです。

今回は、飛騨の特産品「すくなかぼちゃ」を使用しています。ホクホクとしていて自然の甘みがたっぷりなので、そのままおいしく食べられます。「冬至にかぼちゃを食べると力ぜをひかない」と言われているくらい栄養満点の「かぼちゃ」は、特にビタミンやカロテンを多く含み、かぜ予防はもちろん、高血圧の予防、髪や皮膚の健康維持や視力維持、抗がん作用などの働きがあります。

少し手間がかかる料理ですが、親子でいっしょに台所に立ち、おいしく栄養たっぷりのコロッケを作って食べ、冬を元気に過ごしましょう。

材料
4人分

- ・かぼちゃ (すくな) … 150g
(他のかぼちゃでもよい)
- ・じゃがいも … 75g
- ・鶏ひき肉 … 50g
- ・たまねぎ … 65g
- ・塩 … 小さじ1/3
- ・こしょう … 少々
- ・薄力粉 … 大さじ2～3
- ・卵 … 1個
- ・パン粉 … 50g
- ・揚げ油
- ・付け合せ
キャベツ … 100g
プチトマト … 8個

●栄養価(1人分)

エネルギー	181kcal
たんぱく質	7.2g
脂質	5.1g
カルシウム	34mg
マグネシウム	29mg
鉄	0.9mg
亜鉛	0.6mg
ビタミンA	140μgRE
ビタミンB ₁	0.10mg
ビタミンB ₂	0.11mg
ビタミンC	30mg
食物繊維	3.1g
塩分相当量	0.5g

作り方

- 1 たまねぎは、みじん切りにする。
- 2 かぼちゃは皮をむき、厚めのいちように切り、レンジでやわらかくし(蒸してもよい)、つぶしておく。
- 3 じゃがいもを洗い、レンジでやわらかくし(蒸してもよい)、皮をむいてつぶしておく。
- 4 鍋を熱し、油をひき、ひき肉を炒め、火が通ってきたら、たまねぎを入れて炒め、粗熱をとる。
- 5 4にかぼちゃ、じゃがいも、塩、こしょうを入れてまぜあわせ、小判形にまとめる。
- 6 薄力粉⇨溶き卵⇨パン粉の順につけ、油で表面がきつね色になるように揚げる。

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の回答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■お詫び

本誌11月号21頁「お弁当の日」高山市立西小学校PTAの記事の中に、他校の資料が混入していました。

原稿として送られた資料の管理に不手際があり、関係の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

今後、資料の管理に一層の注意を払い、再発防止に努めてまいります。

岐阜県PTA連合会編集長 渡辺良夫

■11月号を読んで

学校栄養士の方が作られた「お試しクッキング」。秋の食べ物「さつまいも」を使ったおやつが載っていて、家でもさつまいもを使ったおやつ(大学いも)を作っていました。子どもたちが喜んで食べてくれて嬉しかったです。久しぶりに作ったので心配でしたが、まだ小さい子がいるのでなかなか作れなかったのですが、よかったです。 Iさん

「さつまいもの巻き巻き」を早速作りました。秋らしいおやつで、たくさん頂いたさつまいもを消費出来て、おいしくいただきました。 Tさん

3 S プラス 1「すごい・さすが・素晴らしい」「ステキ」と「そうくるか」「惜しい」。この言葉、私自身が言われても、嬉しく思います。心にインプットして活用してみます。 Mさん

P11～16の「ほめて育てる子どもの力」。じっくり何度も目を通しました。知っていたら行きたかったほど。早速ほめて、ほめて実践しています。本当に怒らなくなり、子どもとも嬉しそうです。もっと早くほめて、伸ばしてあげたらよかったです。 Yさん

「必ずいいところがある」。信じるプラスの心がけ、悪いところばかりに目が行ってしまうことが多いので、子どもを信じてプラスの心がけの精神でいたいと思います。 Mさん

「ほめて育てる子どもの力」、すごく勉強になりました。「すごい・さすが・素晴らしい」「ステキ!かんべき!」、いい言葉だなと思います。親が言われても嬉しいので、どんどん、子どもに言いたいと思いました。 Kさん

私は毎日、主人と自分のお弁当を作ります。そんな毎日を子どもが見て、お弁当に憧れを持っていてくれます。子どもは、年に数回しかないお弁当の日を楽しみにしています。食育とは、先ず親が自分で作る姿を子どもに見せることもかもしれない、思ったりしています。 Nさん

さつまいもをレンジでチンして柔らかくしたものをザルで裏ごしして、砂糖を混ぜたものが「栗きんとん」の下地にそっくりなので、真似して作ってみたら…。子どもも作れるし、おいしくて大好評でした。 Kさん

もうすぐ公開の映画「杉原千畝」さんが、岐阜の八百津出身ということを「わが子のあゆみ」で初めて知りました。映画に対する見方も変わるだろうなと思いました。楽しみです。 Iさん

■編集後記

東日本大震災の日から、5年目を迎えました。今回も12名の中学生が被災地の門脇中学校の生徒との交流に参加し、その時感じたことを文章にしてくれました。

当時、小学4年生だった子どもたちです。その中で「いざという時に頼りになるのが中学生」という教訓を得て、「役に立つ、頼りになる、力のある中学生」への自覚が語られています。大人の入口に立つ中学生は、子どもではありませんが大人以上に「他の人の役に立つ」力を備えつつ青春の日々を送っています。今春、9年間の義務教育を終えて次のステージに進む子どもたちが沢山います。ひとりひとり皆、希望と不安と悩みを持ちながらの春です。未だ経済的にも精神的にも自立ができない思春期特有の苦悩の日々に、大きな度量と深い愛情で接していきましょう。菅原裕子さんが言いました。「親は子どもの発達段階によって役割があります。保護者はヘルパーとして代わりにやってあげる役割。親はサポーターとして見守る役割。マネージャーは段取りし時々手を貸す役割。スポンサーは経済的支援の役割。コーチは才能を引き出す役割。」じっと、子どもを見ていないと出来ないことばかりです。今年度最後の「わが子のあゆみ」をお届けします。

■なぞなぞの答え

①男の子(ぼっちゃん)

■3月号のお知らせ(予告)

特集＝東日本大震災・被災地中学校との交流を通して(加納中・陽南中・坂祝中・福岡中)／表紙＝郡南中／学校のたからもの＝且格小・梅原小・高山南小・西陵中／わが家の宝物＝桜ヶ丘小／家庭教育応援団／療育＝揖斐特別支援学校／お弁当の日＝正木小／保健室ノート＝国府中／私の先生＝下呂小／半生記＝広見小／ボランティアニュース＝七郷小・本荘小・茜部小・長森南小／子の思い＝滝呂小・桜丘小・谷汲中／親の願い＝羽島西小・神坂中／教育の窓＝下呂尾崎小・岐阜特別支援学校／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝佐見小／きりッ!キッズ!＝瑞穂西小／我が部活＝不破中／私たちのPTA＝精華小

わが子のあゆみ

平成28年1月1日 発行
初春号 第67巻4号
通巻第441号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内

電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259

ホームページ／http://www.g-pta.com

Eメール／info@g-pta.com

印刷／サンメッセ株式会社

濃南中学校は愛知県豊田市と隣接する土岐市の南端部で、鶴里町・曾木町を校区とする標高四百メートルを超える高原に位置します。自然豊かで、冬の寒さは厳しいものの、夏は快適で冷房の必要ありません。

この地域は、古くから愛知と長野をつなぐ輸送路として重要な役割を果たした中馬街道の宿場として栄え、数多くの史跡と伝統が残る歴史ある町です。人口二千百人ほどの小さな校区ではありますが、人と人のつながりは強く、生徒も地域住民の温かい目に見守られて純朴に成長しています。

こうした地域の伝統や温かさを体験的に学ぶため、総合的な学習の時間を『中馬の時間』と称し、取り組んでいます。

一年生は『中馬馬子唄踊り』です。かつて中馬街道で馬をひきながら歩く人々が唄った唄に踊りをつけたもので、白鳥神社豊年祭に奉納されます。この踊りを保存会の方々にご指導いただいています。また、中馬街道とこの地域の歴史を調べるため、恵那市の岩村町と上矢作町を訪れています。

二年生は三百年以上前に曾木町に三河から伝えられ、曾木神社例大祭で奉納される『打囃子』を、同町在住の若い担い手の方からご指導いただいています。

三年生は東濃地区の地場産業でもある陶芸を学びます。やはり曾木町在住の陶芸家のご指導に

よつてろくろを回して作り、学校の裏にある窯で薪を使って二昼夜焼き上げます。この窯も陶芸家の方の手作りです。

『中馬の時間』の開始時期の五月には全校生徒が、町内で当時のまま残る中馬街道へ行き、地元の人々の方々と協力して清掃活動を行います。終了後はその場で中馬街道の歴史や史跡などの講話を聞きます。また、講師や保護者、地域の人々をお招きして、十一月の『中馬発表会』で取組の成果を披露します。

こうした地域学習の成果もあり、生徒たちは登下校時に地域の人々と明るく挨拶をしたり、公民館主催の行事や曾木町で行われる『曾木公園もみじライトアップ』などのボランティア活動に積極的に参加したりしています。また、土岐市保護司会の方と語る会では、「この町が大好き。将来もこの町に住みたい。」と話す生徒もたくさんいます。

年々人口が減少し、さみしくなる町を支えるのは産業や交通ではなく、「人」である
と思える中学校です。



▲「発表会 打囃子」
2年生による毎年11月に行っている『中馬発表会』。



▲「発表会 中馬馬子唄踊り」
「発表会 打囃子」と同様、1年生による踊りの実演。



▲「希望の窯での焼成」
10月に行われた陶芸作品の焼成。朝8時ごろから翌日の昼ごろまで、ゆっくり温度を上げ、未明から1200度以上の温度を保つよう、交代で次々と薪を入れる。

▲「陶芸」
美術室で行っている、陶芸家の加藤昌さんの指導による、ろくろを使った3年生の陶器づくり。



▲「2年 打囃子」
教室における、講師の田口翔悟さんの指導による打囃子（笛・太鼓）の練習。



▲「1年 中馬馬子唄踊り」
本校体育館における、保存会の方の指導による踊りの練習。



▶「中馬街道整備」
1・2年生は曾木町、3年生は鶴里町にある現存する中馬街道で草刈や倒木の除去作業などを行う。両町の老人クラブの方と協力し、終了後に中馬街道の歴史についてお話を聞く。本年度は雨天のため街道整備は行わずお話を聞く会を学校で行った。写真は昨年度のもの。

地域の伝統や温かさを体験「中馬の時間」

きらり！キッズ！

高山市立東小学校は、全校児童四八四名の学校です。学校の教育目標「輝け 東小の子 明るく やさしく たくましく」のもと、自治的な児童会活動によって「四つの宝物づくり」に取り組んでいます。また、地域の方と交流したり、高山のよさを調べたりする総合的な学習を行い、「やさしさのあるまち」を自分たちの手でつくり出す意欲と、郷土を愛する心を育てる「郷土教育」を進めています。

児童会スローガン

『笑顔輝く 私の学校』
高めよう四つの宝物

あいさつ（生活委員会）

毎朝、生活委員会のメンバーが玄関前に立って、さわやかなあいさつで仲間を迎えています。だれもが笑顔で気持ちよい一日を送るために「だれにでも元気にあいさつをする」を目標に掲げ、取り組んでいます。さらに二年生が交代で生活委員の活動に加わりあいさつの輪を全校に広げ、地域の方にも元気なあいさつができる子を目指しています。



自分から先に大きな声であいさつできると、気持ちいい。

反応（学習委員会）

「はずかしい」と「人まかせ」のない授業 挙手・反応・つながって話す」という目標に向かって、学習委員会のメンバーが全校集会で手本を見せたり、授業交流会で他の学級の授業姿勢を互いに見合ったりしています。仲間の意見にハンドサインで反応し、つなげて話すことができるようになっていきます。



仲間の発言をよく聞いて、授業が楽しくなりました。



発表はドキドキするけど、みんなが反応してくれるので、自信がつかます。

思いやりそうじ（美化委員会）

自分たちの生活する場所を自分たちで美しくする心と、仲間と協力し、ひと言も話さないで黙々と掃除することを目指して取り組んでいます。新しい校舎になっても東小思いやりそうじの心をひきついで「使った物に感謝の気持ちで、無言そうじをしよう」の目標を掲げ、頑張っています。



真剣に掃除をしていると、15分はあっという間です。

合唱（歌声委員会）

『全校の声を一つに ～楽しく笑顔で元気に～』の目標に向かって学年、学級で心をつなげてハーモニーを作り出せるよう取り組んでいます。学年交流会や全校集会での学年発表、修学旅行先での合唱、市内の岩滝小との合唱交流など、多くの機会に合唱を披露して、歌うことの楽しさを味わえるようにしています。



全校20名の岩滝小の仲間といっしょに、「世界がひとつになるまで」を歌いました。

「郷土教育」

高山って素敵だなプロジェクト

六年生

年間四〇〇万人もの観光客が訪れる観光都市高山。その高山のよさや魅力を調べ実際に取材をし、ガイドブックを作成しました。それを持って二学期に修学旅行へ出かけ旅行先の京都や奈良で出会った方にガイドブックを渡し、高山のPRをする活動（飛騨高山ジュニア観光大使）をしています。修学旅行後、全国の方々から「いつか高山に行ってみたいです。」とお礼の手紙が届いています。



地元のお店を訪ね、特産品の歴史や仕事の工夫について教えていただきました。

五年生

高山の自然について、カワゲラウォッチングなどの環境調査活動や自然探索活動を行い、身の回りの自然の様子や環境について調べています。五色ヶ原という乗鞍山麓に抱かれた湿原を歩き、清流や滝、原生林などの自然に触れ、自然環境を守り伝えていくことの重要性を学びました。



大自然にいやされ、心も体もリフレッシュ！





吹奏楽部

一音一奏

私たち吹奏楽部のスローガンは「一音一奏」です。これは「一つ一つの音を大切にし、皆でつなぐ合わせ、一つの美しい曲を奏でる」という思いを込めています。部員数の減少により、これまで以上に一人一人の演奏をレベルアップする必要があります。先輩は後輩を引っ張り、後輩は先輩を支え、互いに高め合うことを意識しています。これからの大会で好成績を収められるように、力を合わせ頑張っていきます。



サッカー部

全大会県出場

泉中サッカー部は団結力が強く、新人戦では地区3位までいくことができました。試合に負けたとしても誰一人責めることなく、支え合うことができるチームです。最後まであきらめることなく走りきれ、最高のチームです。試合中チームメイトを信じてプレーすることでチームは強くなるので、信じ合っプレーをしていきたいと思っています。そして、春季大会、夏季大会、2つの大会で県出場できるように、頑張っていきたいと思っています。



剣道部

全力・協力・迫力

泉中剣道部では、スローガンの3つの「力」をつけるように日々の部活に励んでいます。1つ目の力「全力」では素振りから大きな声を出し、全部の練習に一生懸命取り組むことを目指しています。2つ目の力「協力」では、練習中や団体戦のときに応援をたくさんして、温かい雰囲気の一部を目指しています。3つ目の力「迫力」では相手に対して自信をもって攻める剣道をするを目標としています。3つの「力」をしっかりつけ、人間力を形成していきたいです。



女子 バレーボール部

周りの人たちから応援されるチーム

私たち女子バレーボール部は、部活14人、クラブ8人で活動しています。クラブでは毎週月、水の日に練習、土、日に練習や試合などを行っています。2年生は2人しかいないため、昨年は試合ができず練習ばかりでした。しかし、今では1年生が多く入り、6人そろってチームができました。私たちは練習から声を出し、常に集中して取り組んでいます。試合で周りの人たちから応援されるようなチームになるため、笑顔で一生懸命にプレーしています。



男子 バスケットボール部

県大会出場

男子バスケットボール部は、2年生4人、1年生9人の合計13人で、「県大会出場」を目標に練習しています。私たちが特に大切にしていることは、「声を出すこと」です。あいさつの声や応援の声、試合中や試合後のアドバイスの声など、様々な声を大切にしています。2年生4人と上級生が少ないチームですが、まずは自分たちから声を出してチームを盛り上げ、練習をリードしていきたいです。

夢中! 熱中!
我らが部活

土岐市立泉中学校



パソコン部

異学年の集団生活を通して、技術面と共によりよい人間関係を築くことができるパソコン部

私たちパソコン部のスローガンは、異学年の集団生活を通して、技術面と共によりよい人間関係を築くことができるパソコン部です。このスローガンを胸に私たちは、日々3つの目指す姿を意識しています。1つ目があいさつをきちんとする。2つ目が言葉遣い。3つ目が努力を惜みず挑戦し続けるということです。この3つの目指す姿を目指し、これからも頑張っていきたいです。



男子 ソフトテニス部

大きな声でキビキビと

僕たち男子ソフトテニス部は、2年生5人、1年生6人と他校に比べて多くはない人数でありながら、元気よく大きな声を出して練習をしています。練習中は勿論素早く行動し、先輩後輩としての関係もメリハリをつけて行っています。球数えやブライは後輩が行いますが、球拾いは全員できばきと行います。元気はたくさんあるから、厳しい練習の中でも明るく大きな声で、毎週の練習を全員で頑張っています。



軟式野球部

県で勝てるチームを目指す

私たち軟式野球部は、毎日時間を守って集合することをはじめ、どんな時でもみんなで素早く行動することで練習を充実させ、チーム力をあげることを目指しています。新チームで初めて出場した県大会は、一回戦敗退と残念な結果でしたが、その悔しさを糧に、次の地区大会では優勝することができました。この成果を活かして、春の選手権でも結果を残せるように頑張ります。



卓球部

東濃大会出場

卓球部では、基礎練習を通して卓球の基礎を確実に身につけることに共に、課題練習として自分の弱いところを見つけ、克服する努力をしています。私たちが部として気をつけていることは、あいさつです。試合を始めるときにあいさつをすることで礼儀が身につき、気合いが入るからです。日々の取り組みを地道に続けながら、東濃大会出場を目指してこれからも頑張っていきます。



女子 バスケットボール部

堅守速攻

女子バスケットボール部は、2年生2人と1年生11人で活動しています。目標は、県大会出場です。そのために、「基本的なことができる人こそうまくなれる」を合言葉に、あいさつや礼儀をしっかりすること、励まし合ったり自分たちで盛り上げるために大きな声を出すこと、試合で100%の力を出すために、練習から120%の力を出すことを大切に、頑張っています。



陸上競技部

奮進~まっしぐらに進め~

私たち陸上競技部は団体では東濃大会優勝、個人では県大会、東海大会、全国大会出場を目標にして、日々練習に取り組んでいます。目標を達成するために、部活がない日や平日にも自主練習をして互いに高め合っています。私たちは次の5つのことを意識して練習しています。それは、はじめ、大きな声であいさつ、返事、服装、礼儀です。これからは、心と生活に重点をおいたこの5つのことを大切に、更なる高みを目指していきたいです。



美術部

一人一人の作品に対する
思いや知識を高め、刺激し合う部活

美術部では、1年生と2年生の交流を大切にしています。体育大会と合唱祭には、1、2年生で協力して生徒会スローガンの横断幕を制作します。通常の活動では、鉛筆や木炭を使ってデッサンしたり、コンテストの応募作品を作ったりしています。活動を高めるために、活動の仕方について自分たちで考えたり、お互いの作品を紹介し、「こんなことをやってみてほしい」という部員の要望を取り入れたりしています。これからも部員同士で良い刺激を与え合っていきたいです。



女子 ソフトテニス部

中体連 東海大会出場

私たち女子ソフトテニス部は、15人で活動しています。団体戦では東海大会出場を目標にして頑張っています。練習では、元気よく活動すること、時間までに集まってあいさつをすることを大切にしています。短い時間の中でも練習内容を工夫して、高め合っている活動をしています。今後、今まで頑張ってきた元気よく活動すること、時間を守ることなどを大切にしていきたいです。



ソフトボール部

中体連に向けて1回1回の練習を大切に

私たちソフトボール部は、中体連に向けて日々練習に励んでいます。しかし、今の私たちは声が小さく、メリハリも無くてよい練習とはいえません。だから今、部長と副部長とで話し合い、部の改善をしています。服装や時間行動はよくなりました。声はまだ全員が出せていないので、全員で出せるようにしたいです。もちろん、よいところもたくさんあります。そこもどんどん高めていきたいと思っています。



柔道部

全員県大会出場

柔道部の特色は、人数が少ないながらも、過去に大きな結果を残していることです。今までに多くの先輩たちが、中体連で岐阜県の代表として全国大会へ出場しており、今年も3年生の先輩が岐阜県大会で優勝し、全国大会まで進みました。毎日の部活動では、ランニングや縄跳びで基礎体力づくりを励んでいます。部員は全員クラブに入っており、部活で基礎体力をつけ、クラブで練習を行っています。



男子 バレーボール部

全員が一丸となり練習をする

私たち男子バレーボール部は9人しかいません。2年生5人、1年生4人です。試合に出るのが6人なので、2年生と1年生が同じコートにたちます。だから学年に関係なく、一丸となって練習し、絆を強くしています。他にも、皆でまとまって声を出したりあいさつをしたりすることで、スローガンである、「全員が一丸となる」ことを目指しています。



水泳部

生徒の力で部活動をつくる

私たち水泳部は、東濃大会優勝、県大会全員出場という目標を掲げ、朝の陸上トレーニングやクラブの練習を頑張っています。それだけではなく、部活やクラブで先生が何も言わなくても、自分たちで考え、活動する自発的な部活動を目指しています。大会でベストタイムが出せるように日々練習に取り組むことと同時に、社会で通用する力が高まるように、あいさつ、言葉遣い、整理整頓、マナー、時間通り行動する力も大切にしていきたいです。

私たちのPTA

郡上市立牛道小学校PTA

平成27年度PTAスローガン

「深めよう地域の絆 育てよう進んで働く心 見守ろう地域の子どもたち」

すべては、子どもたちのために！

はじめに（学校紹介）

PTA会員五十四世帯、全校児童七十一名の小規模校です。学校のすぐ側には、長良川の支流となる牛道川と阿多岐川が流れる自然豊かな地域です。また、校区の白尾山からは、白山連峰が一望でき、風光明媚な場所でもあります。六ノ里の棚田やトウモロコシづくり、しらおスキーマ場など産業や観光の資源も豊富です。また、三世代同居の家庭が多く、区民運動会や夏祭り、歌謡演劇祭など地域をあげての行事も開催されます。PTA行事は常に一〇〇％参加で、全会員の協力体制で成り立っています。

執行部の活動

毎年六月にPTA主催の教育講演会を実施しています。昨年度は、情報化社会に生きる子どもたちの現状や問題点を取り上げ、情報モラル研修会を開催し、家庭でのルールづくりの大切さを学びました。今年度は、「子どもを伸ばす親の関わり

生活委員会の活動

「ノーテレビ・ノーゲームデー」を七月と十一月に実施しています。家庭学習週間と合わせて取り組むことで、テレビやゲームの時間が、勉強や読書に向けられ、成果があがっています。また、「一時間のゆとり」ができて、家族での会話が増えてよかった。」という感想から、家族のふれあう時間も増えたことがわかります。ノーテレビデー・ノーゲームデーの取組は、家庭生活の向上に役立っています。

スキーマの講師やスキーマの運搬も保護者ボランティアで行います。



1年生家庭教育学級では、「さんぶる工房」で作品づくりを行いました。



保護者ボランティアとして読み聞かせをしたり、図書館司書によるブックトークをしたりしています。

母親委員会の活動

夏休みを利用して「食に関する取組」を実施します。低学年の児童も取り組めるように、家庭での簡単な調理を実践します。時間に余裕があるため、どの家庭でも熱心に取り組むことができます。実践報告書を掲示し、全校児童や保護者に紹介します。また、ベルマーク整理や地域ボランティアの方と協力して読み聞かせ活動も推進しています。

地区委員会の活動

地域との絆を深めることや進んで働く心を育てたいという願いから、親子資源回収を実施しました。地区をあげて協力していただけたことで、たくさん資源を回収することができ、子どもたちの教育環境の整備に活用させていただいています。また、地区懇談会では、子どもたちが安全に登下校したり、地域で安心して生活したりできるように、地区の安全マップをもとに危険箇所の見直しをしました。地域ボランティアの「子ども見守り隊」の活動も、地域ぐるみで子どもたちの安心・安全のための取り組みを実践しています。

年2回資源回収を実施しますが、地域の皆様には平素から回収にご協力いただいています。



夏休みに親子で料理に取り組んでいます。



PTA教育講演会では、「親のかかわり方」をわかりやすく教えていただきました。



救命救急法講習会を高学年児童と1年生保護者で実施しています。

プール掃除も保護者ボランティアの活躍の場です。



地域あがりの夏祭りでは、地区委員は「金魚すくい」を担当しました。

